

思考力・判断力・表現力を育成する小学校社会科学習の在り方

～段階的問題解決的な学習を取り入れた授業実践を通して～

(1年次)

小学校社会科において、思考力・判断力・表現力の育成を目指すために、問題解決的な学習に取り組む必要があることが平成20年度改訂の学習指導要領にも示されている。

そこで、本研究では、1年次の取組として、学年の発達段階に応じた問題解決的な学習を設定した。学習過程は「気付く・調べるⅠ・調べるⅡ・まとめる」とし、調べ方、考え方、学び方について学び合うための学習形態を取り入れた授業実践を行い、思考力・判断力・表現力の育成を図った。併せて、客観性、妥当性の信頼度の高いパフォーマンス評価による思考力・判断力・表現力の評価を試みた。

その結果、子どもは問題解決的な学習に意欲的に取り組むとともに、表面的な知識の習得ではなく、知識を比較、関連付け、総合して思考することや社会的概念を自分の言葉で表現する力を形成することが分かった。

研究会委員

尾張旭市立城山小学校教諭
津島市立北小学校教諭
知立市立知立東小学校教諭
総合教育センター研究指導主事

坪井 隆博（平成23年度）
井戸田 竜郎（平成23年度）
杉浦 卓次（平成23年度）
佐々木佐知子（平成23年度主務者）

1 はじめに

平成 20 年改訂の学習指導要領においては、「生きる力」を育むために基礎的・基本的な知識及び技能を着実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することが求められるようになった。小学校社会科においては、社会的な思考力や判断力の育成に関して配慮すべき事項として、公正に判断する能力と態度を養うこと、社会的な見方や考え方を成長させることをより一層重視する方向で改善が図られている。つまり、子どもが自分で調べたことを基にしながら、社会との関わりの中での人々の生活についての特色やつながりなどを、様々な視点から考えられるようにすることが重要であると考ええる。

2 社会科学習における子どもと教師の実態

(1) 「基礎・基本となる知識・概念」と「問題解決的な学習」について

国立教育政策研究所教育課程研究センターは、平成 19 年度に基礎的・基本的となる知識・概念と問題解決的な学習に焦点を当てて「特定の課題に関する調査（社会）」を実施した。その調査結果のポイントは、以下のとおりである。

《基礎・基本となる知識・概念》

- ・ 47 都道府県の名称と位置の正答率は約 55%
- ・ 47 都道府県をまとめて覚える、白地図を使って学習した子どもの正答率が高い傾向
- ・ 歴史上の人物と業績の正答率は約 70%
- ・ 日本国憲法の三原則の正答率は 85%以上

《問題解決的な学習》

- ・ 多様な資料の中から問題を発見・把握する力が不十分
- ・ 課題の解決策を表現したり、その理由を説明したりすることが不十分

「分析結果から見た主な課題と指導上の改善」事項として、

《基礎・基本となる知識・概念》

- ・ 地図帳の継続的な使用、白地図作業など多様な学習活動の工夫
- ・ 人物年表や人物事典作りや、歴史的な事象と結び付けた、人物理解を深める指導の工夫

《問題解決的な学習》

- ・ 資料を読み取り、関係付ける活動を通して、子どもの問題意識を醸成させる指導の工夫
- ・ 調べた事実を基に考え、表現する学習機会の充実

が挙げられている。知識を習得させるだけでなく、思考力・判断力・表現力等の育成を目指した学習の必要性が求められていることが分かる。

(2) 社会科学習に対する意識調査

ベネッセ教育研究開発センターの平成 18 年実施の「第 4 回学習基本調査」（小学生 2,726 名）では、小学校の「好きな教科」において、社会科の「とても好き」「まあ好き」を合わせた割合は、48.0%と全教科中で最下位であった。

さらに、社会科学習に対する実態を探るため、平成 23 年 6 月、愛知県下の小学校の子ども（5 年 922 名・6 年 1,000 名 計 1,922 名）と社会科を担当している教師（106 名）への意識調査を実施した。

ア 子どもの意識

図1 社会科学習に対する子どもへの意識調査の結果から(愛知県内の子ども N=1,922)

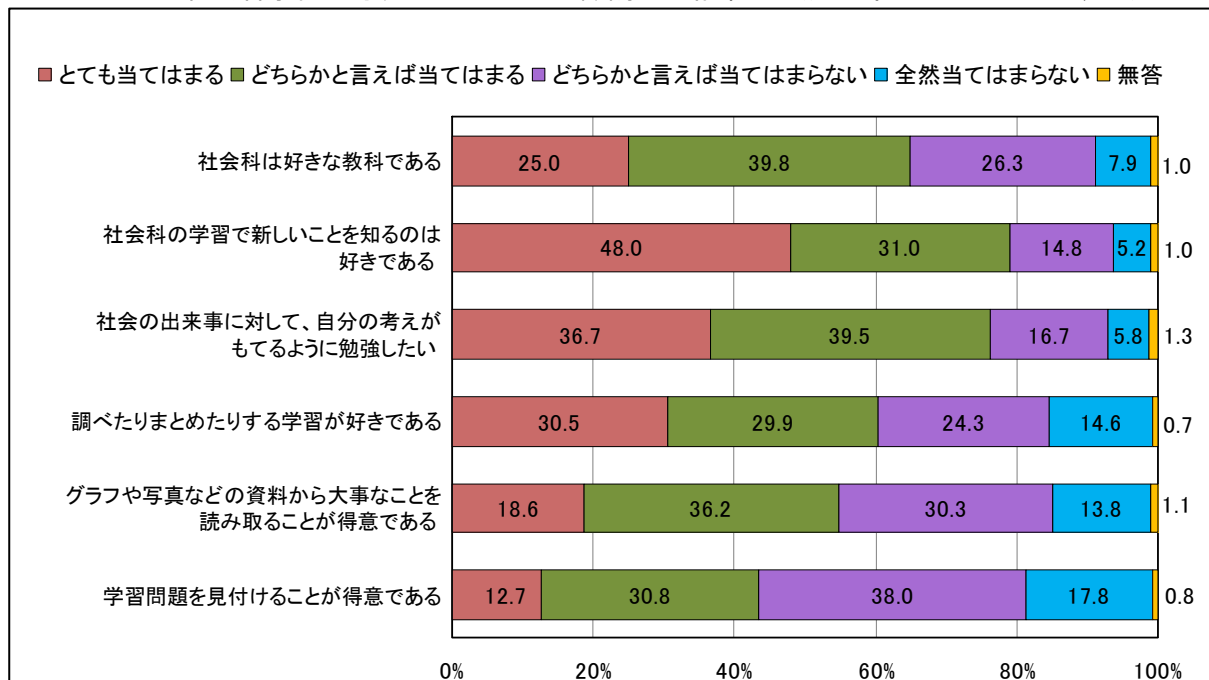


図2 学年別の社会科が好きな子どもの割合(愛知県内の子ども)

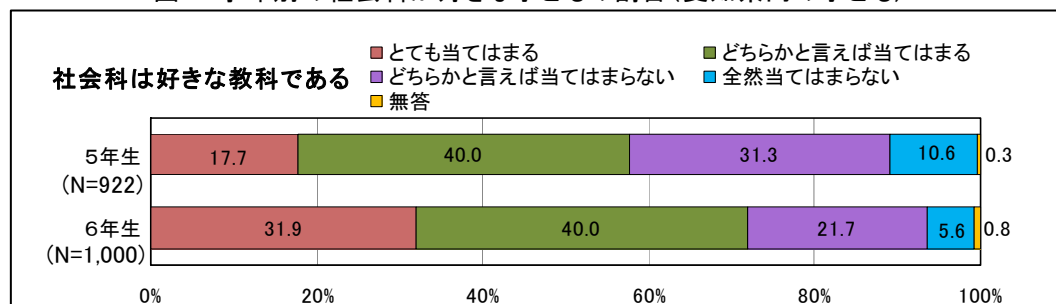


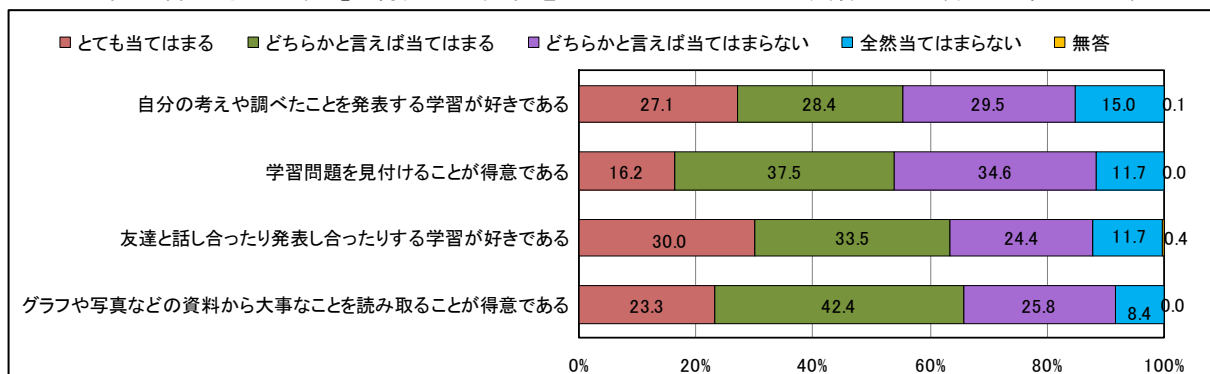
図1の子どもへの意識調査から、社会科が好きな教科である子どもは、64.8%、新しい社会的事象について知るの好き（79.0%）で、社会の出来事に対して、自分の考えがもてるように勉強したい（76.2%）という傾向にある。特に、「新しい社会的事象について知るの好き」については、図2「学年別の社会科が好きな子ども」において、6年生の肯定的な回答（71.9%）が多いという結果からも実証される。調査実施時期から考え、6年生の「歴史学習」を新しい事象として認識していることが理由として考えられる。

しかし、調べたりまとめたりする学習や資料を読み取る学習に対して、肯定的とはいえない。学習問題を見付けることに対しても否定的な回答が多い。

さらに、「社会科が好きである」と肯定的な回答をした子ども（1,256名）について、具体的に意識の分析をすると、図3のような結果を得た。社会科は好きでも、学習問題の設定が苦手、話合いや発表は好きでない、資料の読み取りが苦手という子どもが3割から4割以上である。

すなわち、子どもは、新しく出会う社会的事象について、興味・関心をもち、社会の出来事にも主体的に関わり、自分の考えをもてるようにしたいと考えているが、具体的に自分の問題を見付け、追究し、解決する力は十分ではない。このことから、問題解決的な学習を積極的に取り入れた授業づくりが必要である。

図3 「社会科は好きである」と肯定的な回答をした子どもについての具体的な意識の内容 (N=1,256)



イ 教師の意識

教師の社会科学学習に対する意識については、「社会科を楽しく指導できる」という教師が 67.0%いる (図 4)。

図4 社会科学学習に対する教師への意識調査の結果から(愛知県内の教員 N=106)

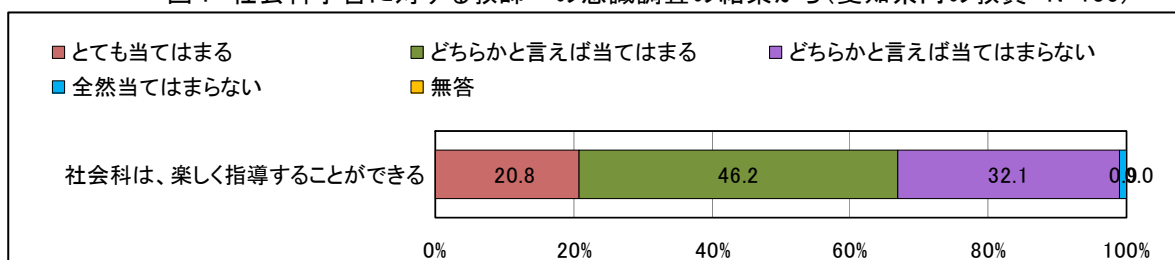


図5 社会科学学習に対する教師への意識調査の結果から(愛知県内の教員 N=106)

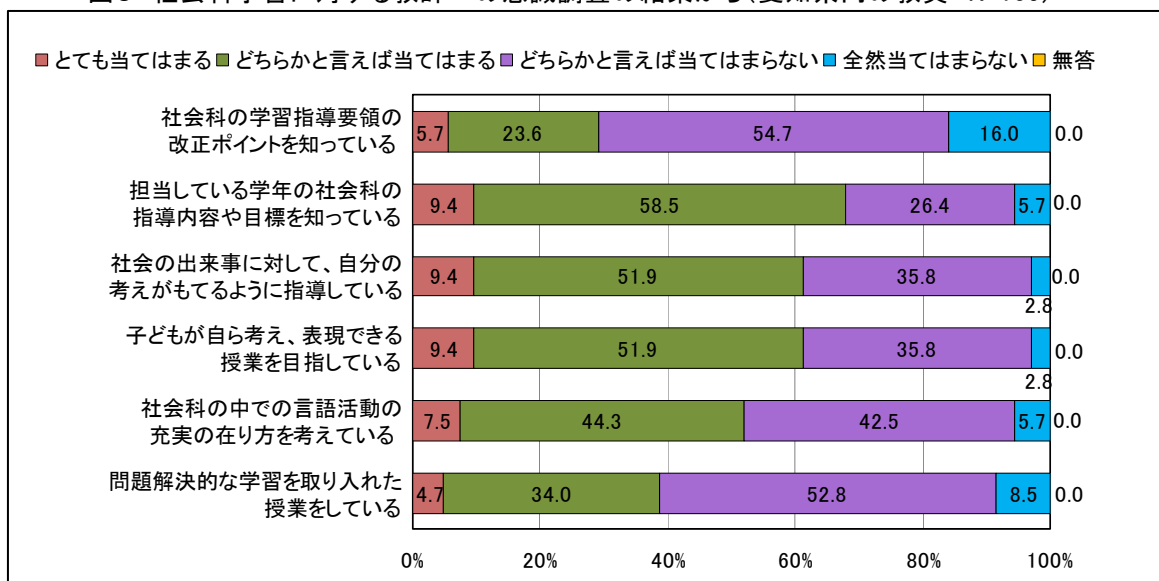


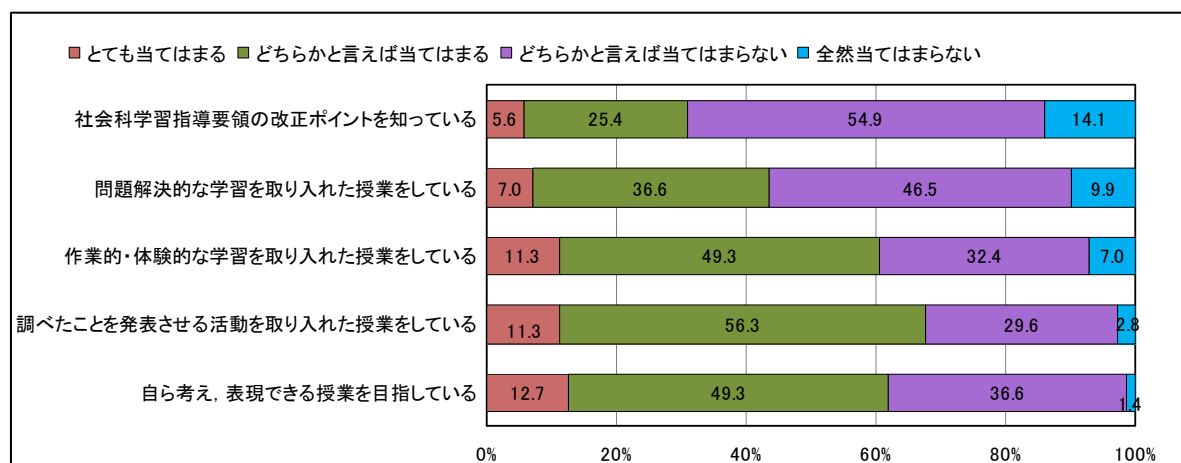
図5の「社会科の学習指導要領の改正ポイントを知っている」については 29.3%にとどまっており、この結果から、教師は、新学習指導要領の改正ポイントをしっかりと認識し

ているとは言い難い。しかし、言語活動の充実を図りながら思考力・判断力・表現力等を目指した学習指導が求められていることについては、半数以上の教師は意識している。

ここでは、社会科の学習指導要領の改正ポイントの一つである「問題解決的な学習を取り入れた授業をしている」教師（38.7%）と、「子どもが自ら考え、表現できる授業を目指している」教師（61.3%）に着目した。多くの教師は、子どもが主体的に考え、表現できる授業を目指しているが、その学習活動である問題解決的な学習を十分に取り入れられていないのが現状である。これは、子どもへの調査（図1）「学習問題を見付けることが得意である」が43.8%とやや少ないことから、問題解決的な学習の取組が十分でないことが考えられる。

さらに、「社会科は、楽しく指導することができる」と肯定的に回答した教師（71名）の具体的な意識を見ても、学習指導要領の改正ポイントを知らない、問題解決的な学習や作業的・体験的な学習、発表する活動を取り入れていない、自ら考え、表現できる授業を目指していない教師が目立っている（図6）。

図6 「社会科は、楽しく指導することができる」と回答した教師の具体的な意識の内容（N=71）



以上のことから、問題解決的な学習の取組を推進し、思考力・判断力・表現力を育む必要があることが分かる。

3 社会科学習で育成したい力

(1) 学習指導要領の改訂で求められている社会科学習の在り方

学習指導要領の改訂の背景には、社会情勢の変化及び児童生徒の国際調査の結果がある。特に、児童生徒の思考力・判断力・表現力等に課題があったことから、中央教育審議会の答申を踏まえ、社会科の授業では、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させることや、言語活動の充実を図る必要がある。

ア 「目標」の改善から見える育成したい力

思考力・表現力の育成を目指して、理解・態度・能力のうち、各学年の能力に関する目標について、これまでの「調べたこと」に「考えたこと」を加え、「考えたことを表現する」能力を一層重視している。

イ 「内容」の改善から見える育成したい力

内容の一部が改善され、新たな内容が加えられた。その中で、例えば、3年「店で働く人々の仕事」における「販売」については、「販売者側の工夫を消費者側の工夫と関連付け

て行うこと」，5年「情報化社会と私たち」における我が国の情報産業などの様子と国民生活との関連に関する内容については、「情報化した社会の様子と生活のかかわり」となるなどの改善があった。つまり，社会的事象を一面的ではなく，多面的，総合的にとらえる力や社会的事象を比較・関連付け（つなげる）・総合（まとめる）して見たり考えたりする力を育てることが求められている。

ウ 社会科における言語活動

小学校学習指導要領解説社会編（平成 20 年 8 月）では，社会科における言語活動について，「観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習，それらを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習，考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習など」と具体的な学習活動を示している。すなわち，調べたことを読み取り，自分なりに解釈して自分の言葉でまとめ，それをみんなで共有することによって，自分の考えを深められるような学習活動が求められているのである。「自分の言葉でまとめる」活動を充実させ，読み取り，解釈，説明，論述の力を育てることが大切である。

(2) 必要な力を育成するための活動

社会科学学習において，思考力・判断力・表現力や多面的にとらえる力を育成するには，思考活動と表現活動を取り入れた授業を展開する必要がある。そのため，学習指導要領でも，問題解決的な学習の実践が求められている。

ア 思考活動

学習指導要領の各学年の目標における能力に関する目標に，「考える力」と表記された各学年で育むべき能力が，以下のように系統的，段階的に示されている。

学年	思考力・判断力
第 3 学年及び第 4 学年	地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力
第 5 学年	社会的事象の意味について考える力
第 6 学年	社会的事象の意味をより広い視野から考える力

ここで「考える力」と表記されている内容は，思考力・判断力と考えられ，内容の取扱いでは，社会的事象を多面的，総合的にとらえ公正に判断するように配慮事項としている。

「社会的事象の意味について考える力」を育成するためには，学習問題に沿って調べたことから，「どのようなことが言えるのか」を自分なりに思考する活動が必要である。そのために，調べたことを文や図に表し，分類したり，つながりを見いだしたりしながら考え，具体を一般化する帰納的な思考を育成する活動を工夫したい。さらに，高学年では，理解したことを基にして，それらを具体化する演繹的な思考もできるようにしたい。

イ 表現活動

思考は，言語を操作して行われる。頭の中で思考したことを他者に分かるように伝えるために，その内容を組み立て直し，順序やつながりを確かめながら，話したり書いたりしなければならない。

さらに，自分の考えを表現し合ったり他者に伝え合ったりすることで，他者の考えを知り，自分の考えを振り返って客観的に認識することができる。考えを伝え合い，他者の考えと自分の考えを比較し，関連付けて考え，再度自分の考えを見直すことで，多面的に思

考する力につながる。つまり、自分の考えを図や文で表現して交流活動を行い、自分の考えを再構成することによって表現力を高めていくことができるのである。

これらの思考活動と表現活動を問題解決的な学習の過程に位置付けることにより、社会科学学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成することができるものとする。

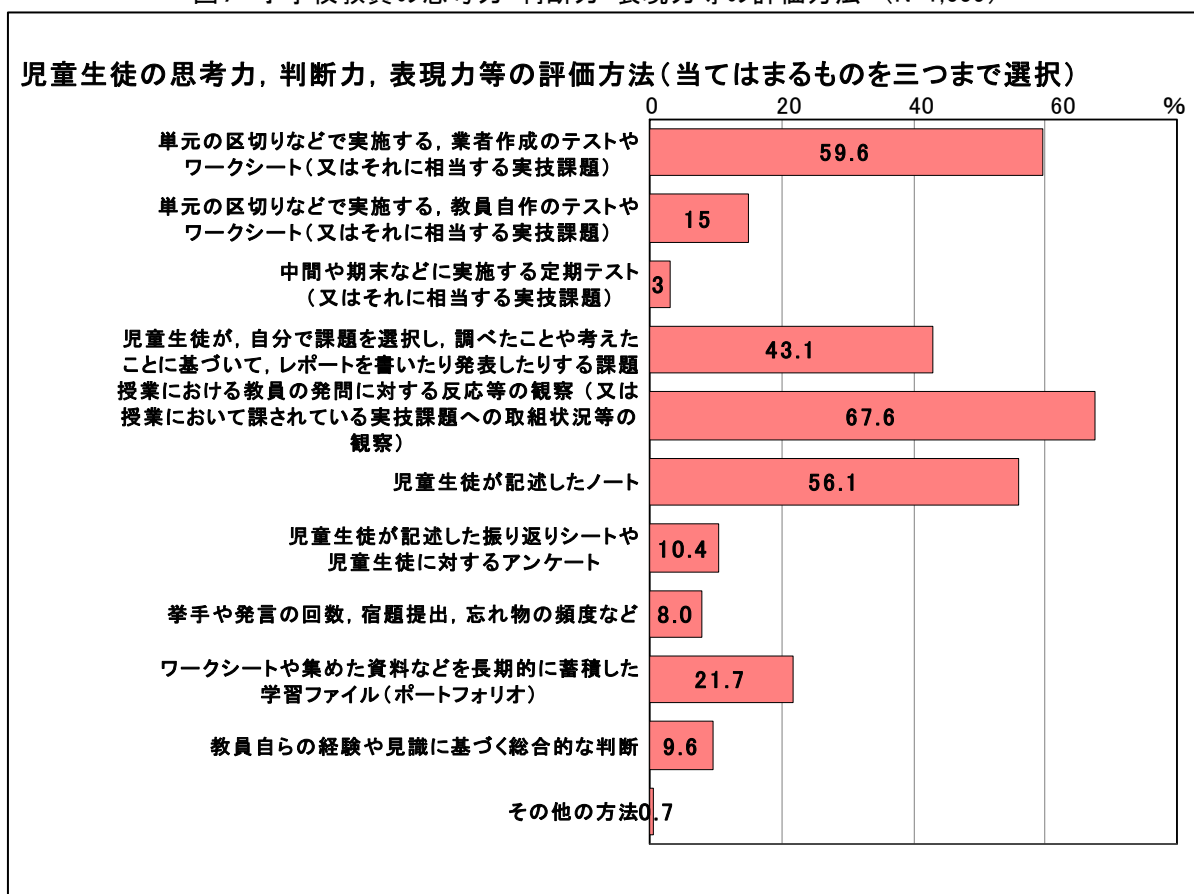
4 思考力・判断力・表現力の評価

思考力・判断力・表現力について、育成の状況を分析するためには評価が必要である。思考力・判断力・表現力における評価の方法や実施状況の現状について、データから読み取ることができる。

平成 21 年 8 月に行われた文部科学省委託調査「学習指導と学習評価に対する意識調査」の報告書から、小学校教員（回答者数 1,659 名）の思考力・判断力・表現力等の評価に対する意識を見ると、以下のことが言える。

図 7 の「児童生徒の思考力、判断力、表現力等の評価方法」では、多くの教員が、「授業における発問に対する反応等の観察」「業者テスト・ワークシート」「児童生徒が記述したノート」「児童生徒が自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする課題」をその手段としている。しかし、これらの評価方法は、客観性・信頼性が十分であるとは言えない。

図 7 小学校教員の思考力・判断力・表現力等の評価方法（N=1,659）



また、観点別学習状況の「評価を円滑に実施できているか」について集計したのが、図 8 である。「知識・理解」「技能・表現」の観点では、90%以上の教員が肯定的にとらえている一方、「思考・判断」の観点は、円滑に実施できていると思わないと回答の割合が高い。

その観点「思考・判断」の評価について、教科間で比較したのが、図9である。社会は「社会的な思考・判断」、算数は「数学的な考え方」、理科は「科学的な思考」、生活は「活動や体験についての思考・表現」である。肯定的にとらえている回答は、他教科に比べ、社会の割合が低い。社会科の思考力・判断力・表現力の評価は難しいととらえている教員が多い。

実際、図10の愛知県内の調査においても、「思考力・判断力・表現力の評価が難しい」と回答した教員が82.1%であった。評価が難しいと感じる要因は、何を（内容面）、どのように（方法面）評価すればよいのかが明確でないからであるとする。

図8 意識調査による評価の実施状況①(評価を円滑に実施できているか)

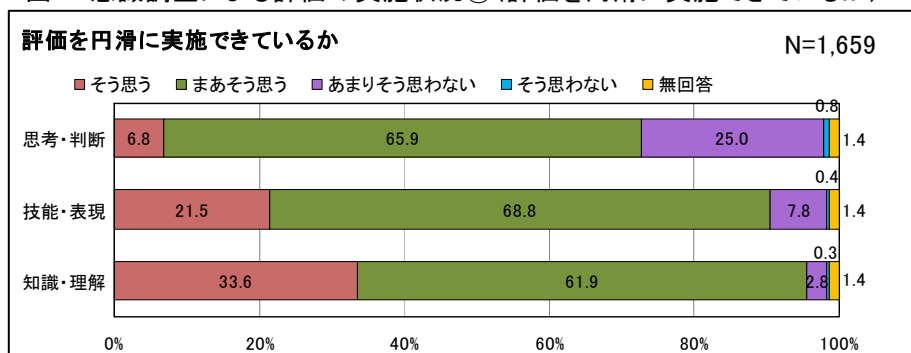


図9 意識調査による実施状況②(「思考・判断」の評価を円滑に実施できているか)

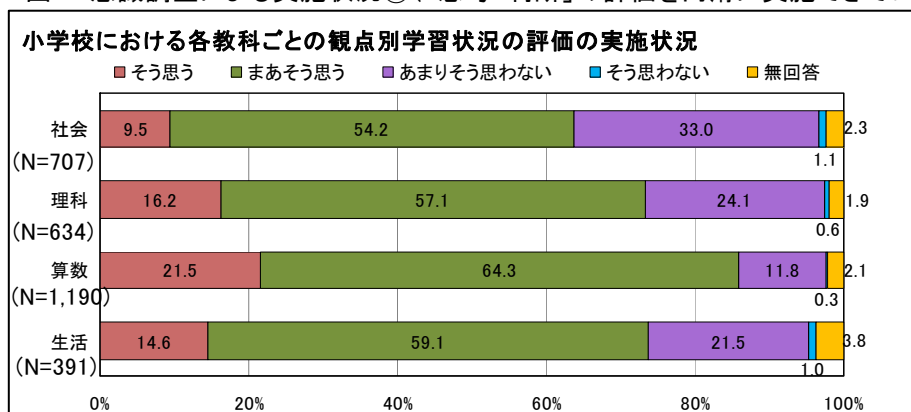
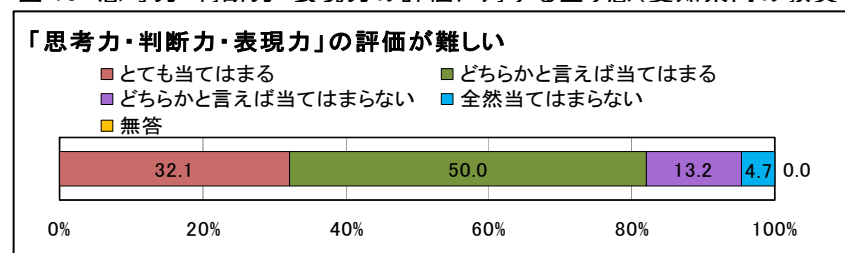


図10 思考力・判断力・表現力の評価に対する困り感(愛知県内の教員 N=106)

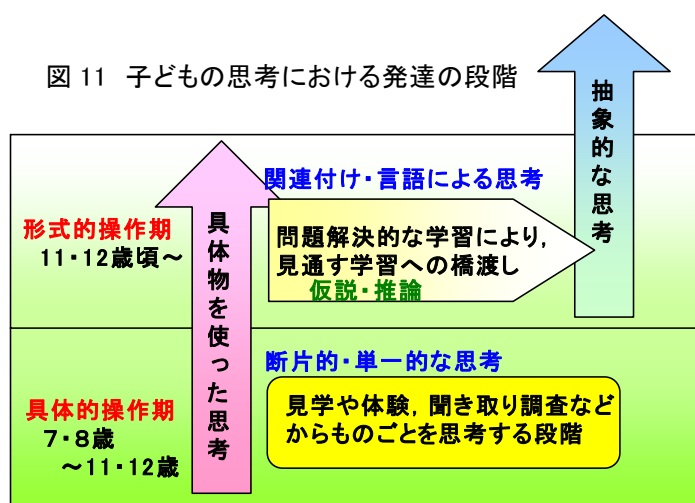


5 思考における発達の段階

子どもの思考の発達は、3・4年生での具体的思考から6年生頃の抽象的思考へと変容していく。発達心理学者のピアジェの思考発達段階説では、7～11歳頃を断片的で体系のない生活体験を礎に思考する具体的操作期とし、12歳以降を蓄積、体系化された知識や記憶を基に論理的な思考ができる形式的操作期としている。

具体的操作期の段階では、観察や見学を通して得た体験を基にする具体的な思考が主流である。形式的操作期の段階では、今までの体験、経験、既存の知識を礎にして、新しい社会的事象について、具体的な活動がなくても見通す力ができ、各種の資料や友達との話

図11 子どもの思考における発達の段階



合いを通して、情報を交換してものを考えるという抽象的な思考ができるようになるのである。したがって、具体的な思考から抽象的な思考への橋渡しをするための問題解決的な学習の在り方も考える必要があるため、学年の発達段階を考慮して、学習過程の在り方を探っていく。

6 研究の目標

(1) 研究の構想

図 12 研究構想図



子どもが社会的事象に出会い、楽しいと感じながら自分の考えをもち、表現できる社会科授業への改善が必要であると考えられる。そこで、図 12 の研究構想図のように、子どもが自ら学習問題を見付け、考え、表現するという問題解決的な学習の在り方について、子どもの思考における発達段階も考慮して探っていきたい。また、教師が難しいとしている観点別学習状況の「思考・判断・表現」の評価についても、問題解決的な学習を実践していく中で、実証的に研究していく。

(2) 目指す子ども像

「社会的事象に主体的に関わり、自ら考え、判断し、表現できる子」

《3・4年生》 学習問題を選択して、体験を通して調べ、問題の答えとして考えを短い文で書き表すことができる子

《5年生》 学習問題を把握して、体験や調べたことから分かったことを伝え合い、考えを論述することができる子

《6年生》 学習問題を設定し、調べたことから分かったことや考えたことを伝え合い、その考えを再構成させて論述できる子

(3) 研究の仮説

社会科の一単元の学習において、学年の発達段階を踏まえた4段階の学習過程の問題解決的な学習を取り入れた授業を展開すれば、子どもは主体的に学習に取り組み、社会的事象についての思考力、判断力、表現力を高めることができるであろう。

7 研究の計画

(1) 1年次（平成23年度）の研究

基本的な問題解決的な学習の流れの構築を図る。問題解決的な学習を初めて導入する3人の研究員が各1実践を実施し、各学年に応じた問題解決的な学習の在り方を探る。

また、観点「思考・判断・表現」の評価方法と判定についても考察する。

(2) 2年次（平成24年度）の研究予定

1年次の実践を踏まえ、発達段階に応じた問題解決的な学習の流れの確立を図る。子どもの発達段階を踏まえ、学年に応じて以下のような学習段階を設定し、実践する。

学年	学習の段階
3・4年	基本的な問題解決的な学習の仕方の導入段階
5年	問題解決的な学習に慣れる段階
6年	問題解決的な学習を習熟する段階

8 1年次における研究の方法

(1) 具体的な手だて

《手だて①》 4段階の学習過程の設定と思考活動・表現活動の位置付け

基本的な問題解決的な学習における4段階の学習過程を設定し、学習形態を工夫した思考活動と表現活動を位置付け、思考力・判断力・表現力の育成を図る（表1）。

《手だて②》 問題解決のためのワークシートの工夫

問題解決に向かわせるためのワークシートを使用し、学級全体での考えの交流後、根拠を基に自分の言葉で考えを再構成させ、表現させる。

表1 4段階の学習過程と思考活動・表現活動の位置付け

気付く(問題設定)段階 【一斉学習】	・事象との出会い (学習問題がもてるように効果的に出会わせる) 《中学年》教師の用意した学習問題 (学習問題の設定の理由を明確にする) 《高学年》単元を通しての学習問題の設定 (資料による根拠を基にして設定させる)	思考活動
調べるⅠ(問題追究)段階 【個別又はグループ学習】	・資料収集, 資料選択, まとめ (図表への整理, 共通点と相違点への着眼, 観点の設定による分類)【個人】 ・友達と追究する【グループ】	表現活動
調べるⅡ(問題追究)段階 《交流》 【グループ又は一斉学習】	・調べたことを発表し, 考えを伝え合う (共通点と相違点を明確にした交流, 双方向の立場による交流)【グループ・全体での共有化】	
まとめる(問題解決)段階 【個別・一斉学習】	・自分の考えの再構成 《中学年》・考えを比較して文章化する 《高学年》・社会的事象における問題について概念化をする ・新しい考えを見いだす	

(2) 検証方法

ア 検証授業

3学年で検証授業を行い、子どもの意識調査とワークシートの記述内容から4段階の学習過程による問題解決的な学習における思考活動と表現活動の有効性を検証する。

子どもの意識調査は、各学習段階（気付く・調べるⅠ・調べるⅡ・まとめる）の満足度を単元終了後に行う。また、ワークシートの記述内容は、使用した各学習段階（気付く・調べるⅠ・調べるⅡ・まとめる）のワークシートにおいて、達成度から判定する。

- ① 3年 単元名「商店のしごと」 知立市立知立東小学校
- ② 5年 単元名「自動車工業のさかんな地域」 津島市立北小学校
- ③ 6年 単元名「明治の国づくりを進めた人々」 尾張旭市立城山小学校

イ 思考力・判断力・表現力の評価の判定方法

思考力・判断力・表現力の評価には、結果の判定に客観性、妥当性の信頼度が高いパフォーマンス評価が適していると考えられる。パフォーマンス評価とは、ルーブリックで達成度を判定する評価方法である。また、ルーブリックとは、達成の度合いを示す2～5のレベルの尺度とそれぞれのレベルに対応するパフォーマンス（達成度・完成作品等）の特徴を文章表現で示している評価基準である。

パフォーマンス評価は、A判定（十分達成）、B判定（おおむね達成）、C判定（Bに達

していない) の3段階で判定する。

なお、気付く(問題設定)段階の評価は、学習問題を把握し、選択する指導に重点を置くので、次時の指導に生かす評価とする。

① 単元の評価

単元における表現活動の中で、社会的事象の思考・判断・表現の到達度を判定するためにパフォーマンス評価を行う。パフォーマンス評価のルーブリックは、単元で学習した社会的事象の用語を活用して比較、関連付け、総合して文章表現し、その到達度の段階で判定できるように作成した。ここでのパフォーマンス評価は、ワークシートの記述内容からA判定(十分達成)、B判定(おおむね達成)、C判定(Bに達していない)の3段階で判定する。

② 単元の定着度の評価

単元終了後の1～2か月後に思考力・判断力・表現力の定着度を測定するテストを実施する。これは、単元終了後すぐのテストの評価では、記憶力に頼る「知識・理解」の評価になりがちになるため、それを避け、真の思考力・判断力・表現力が定着しているかを測定、評価するもので、本研究では、「総括的评价」と呼ぶ。方法は、「単元の評価」と同じパフォーマンス評価法とする。

また、パフォーマンス評価法が思考力・判断力・表現力を的確に測定する総括的评价として有効であるか検証する。そのため、「単元の評価」と「単元の定着度の評価」の測定結果を比較し、異同の分析をして検証をする。

★実践事例【検証授業Ⅰ】

知立市立知立東小学校 3年

1 単元 商店のしごと

2 単元について

本学級の児童は、日本人13名、外国人6名の合計19名であり、中には日本語の能力が十分でない子もいる。とても明るく活発な児童が多く、言われたことには真面目に取り組もうとする学級である。

本単元では、学校から歩いて行けるスーパーマーケットAを取り上げる。このスーパーマーケットには全員が行ったことがあり、買い物の経験がある児童もおり、とても身近な存在である。しかし、スーパーマーケットに、家の人が行く訳や店で働いている人の工夫には、気付いていない児童が多い。また、商品の流通についてもほとんど知らないのが現状である。地域の販売の特色をつかむだけでなく、一人一人の児童が、自分の身の回りの消費生活に目を向け、消費者としての工夫を考えさせたり、店によって集客力や購買力を高めるために様々な工夫がされていることに気付かせたりするにはよい教材である。

本単元では、問題解決的な学習を初めて取り入れる。児童が学習問題を設定して、追究のために見学をしたり、調べたり、話し合ったりする。そして、学習問題を解決することは「おもしろい」「楽しい」と感じながら、社会的なものの考え方ができるようにしたい。特に、地域のスーパーマーケットを扱う授業では、「たくさんのお客さんがくる理由」を学習問題にして、児童なりの意見を出させたいと考えている。その中で、児童が学習問題に対して調べ、学級の中で考えを出し合いながら、更に考えを深めることができるようにしたい。

3 単元目標と評価規準

(1) 単元目標

地域には販売に携わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事に見られる特色、他地域などとの関わりを理解するとともに、販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考え、適切に表現する。

(2) 評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
評価 規 準	①販売の仕事の様子 に関心をもち、意欲 的に調べている。 ②販売の仕事につい ての理解に基づい て自分たちの生活 との関わりを考え ようとしている。	①販売の仕事の様子 について、学習問題 や予想を考え、学習 計画を立てて追 究・解決している。 ②販売の仕事に携わ る人々の工夫を消 費者の工夫や自分 たちの生活と関連 付けて考え、適切に 判断し、表現してい る。	①販売の仕事の様子 について、見学や調 査をして情報を収 集し、販売者の工夫 を読み取っている。 ②分かったことをグ ラフや絵地図、作品 などにまとめている。	①消費者の工夫と関 連付けて販売の仕 事の特色が分かる とともに、他地域と の関わりを理解し ている。 ②自分たちの住んで いる地域には、販売 に関する仕事があ り、それらは、自分 たちの生活を支え ていることを理解 している。

4 単元計画と評価計画（11 時間完了）

時	主な学習内容と学習活動	おおむね達成（B）	十分達成（A）
気付く （問題設定） 【一斉】 ①	○ 買い物調べをした結果をグラフにまとめて気付いたことを話し合い、学習問題を作る。① ・ 買い物をした店と行く理由をグラフにまとめる。 ・ グラフを見て気付いたことを話し合う。 A スーパーに行く人が多い。 安いから行く人が多いね。 近いから行く人が多いね。 チラシが入ってくるから。	関① 家の人の買い物に関心を持ち、買い物をした場所や行く理由を調べている。 思① グラフの結果から、行くお店や理由に目を向けて学習問題を考えている。	・ 家の人の買い物に関心を持ち、買い物をした場所や行く理由を具体的に調べている。 ・ グラフの結果から、行くお店や理由に目を向けて学習問題を考え、行く理由についての考えを広げている。
	（安いからや近いからの理由のほかに） どうしてこんなにたくさんの人がAスーパーに行くのだろうか。		
調べるⅠ （問題追究） 【二斉】 ②計画③見学【個別】 ④まとめ【一斉】 ⑤発表	○ スーパーマーケットの見学の計画を立てる。② ・ 店の様子 ・ 働く人の様子 ・ どうしてたくさんの人が来るのか。 ＊見学に初めて行くので、「店の様子」と「働く人の様子」の大枠を与える。 ○ 見学や取材で調べたことをワークシートに書いて気付いたことについて話し合う。 ・ 店の様子 ・ 働く人の様子 （どうしてたくさんの人が来るのか） ③見学 ④見学のまとめ ⑤見学で見付けたことの発表	＊2回目の見学で見学の視点を見付けるようにする。 思① 学習計画の説明を受けて、見学の視点を意識して追究・解決しようとしている。 技① 見学の視点に基づいて店内や働く人の様子を観察したり、取材したりして調べ、情報を集めている。 ＊「たくさんの人が来るのは、店の工夫にあることに気付いた」という児童の意見から、再度、見学に行き、「工夫」を探す調べ学習を行う。	・ 見学の視点を意識して、自分なりの視点でも、追究・解決しようとしている。 ・ 見学の視点に基づいて店内や働く人の様子を観察したり、取材したりして調べ、予想に適した情報を選択している。

調べるⅡ (問題追究) 【一斉】⑥計画⑦見学【個別】⑧まとめ【一斉】⑨⑩発表	○ 2度目の見学で調べたスーパーマーケットの工夫について話し合う。 ⑥工夫を見付けるための計画 ・店の工夫 ・働いている人の工夫 ・その他の見学の視点 ⑦見学 ⑧見学のまとめ ・働いている人の工夫 ・お店の工夫 ・値札の工夫 ・並べ方の工夫 ・その他の工夫 ○ お店の「工夫」の発表 ⑨ 本時 ⑩ 他地域との関わり	思① スーパーマーケットの工夫について自分なりの見学の視点をもつことができる。 技① 見学の視点に基づいてスーパーマーケット工夫を観察したり，取材したりして調べ，情報を集めている。 思① スーパーマーケットの工夫について，いろいろな面から考えている。 知② 商品を通して，販売の仕事は自分たちの生活や他地域と関わりをもっていることを理解している。 関② スーパーマーケットの仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。 技② 産地，スーパーマーケット，自分の順につながりを表している。	・スーパーマーケットの工夫についての自分なりの見学の視点を持ち，友達の見解からさらに新しい見学の視点をもったり，自分の視点をさらに詳しく調べようとする視点をもったりすることができる。 ・見学の視点に基づいて店内や働く人の様子を観察したり，取材したりして調べ，予想に適した情報を選択している。 ・スーパーマーケットの工夫について，いろいろな面から考え，更にそれをお客の願いと結び付けて考えている。 ・販売の仕事と自分たちの生活や他地域との関わりによって販売の仕事や自分たちの生活が成り立つことが分かっている。 ・他地域で生産された品が販売の仕事によって自分たちの生活が成り立っていることについて考えようとしている。 ・産地・スーパーマーケット，自分の順につながりを表しその過程に輸送などとの関わりが表現できている。
まとめる (問題解決) 【一斉】⑪	○スーパーマーケットにたくさんの方が来る理由を学習したことを基に発表することができる。⑪ ・他地域や自分の生活との関わりを考え，スーパーマーケットはどんな仕事をするところか話し合う。	思② スーパーマーケットの工夫がお客の願いと結び付いていることを考えている。	・工夫がお客の願いと結び付いている理由を考え，販売の仕事の特色に気付いている。

5 本時の指導

(1) 目標

発表を通してとらえ直したお店の工夫について、自分の考えとして表現することができる。

(思考・判断・表現)

(2) 準備

教師 見学したときの写真、ワークシート

児童 発見した工夫カード

(3) 指導過程

時間	児童の活動	教師の活動 (・教師の支援 ◎発表の工夫及び支援)
2	1 本時の学習問題を知る。	・活動を思い出せるように見学のときの写真を提示する。
	Aスーパーはどんな工夫をしていたでしょう。	
28	2 見学で見付けた工夫を発表する。 働いている人の工夫 ・レジの人が、商品をつめるための袋を用意していた。 ・値札のシールを貼っていた。 ・お買い得のシールを貼っていた。 お店の工夫 ・避難経路が貼ってあった。 ・カートが用意してある。 ・いろいろな種類の商品を用意してあった。 ・店が開店すると冷蔵庫のところに掛けてあったビニールシートを取っていた。 ねふだの工夫 ・色を分けて書いてあった。 ・値段が大きく書かれていていくらかすぐに分かる。 ・商品を使った献立が書いてあった。 ・どこから来たかを書いてあった。 並べ方の工夫 ・きれいに並んでいた。 ・お客が取りやすいように並べていた。 ・肉をななめに並べていた。 その他の工夫 ・仕入れの値段が安い時は、たくさん仕入れて安く売るようにしている。 ・いろいろの国や県から商品を仕入れている。	・発見した工夫カードの内容を発表するように声を掛ける。 ・児童が考えやすいように、分類して板書する。 ・友達の意見を聞くように声を掛ける。 ◎発表しやすいように話型を提示する。 ◎発表しやすいように、同じ意見や似ている意見から発表するように声を掛ける。 ◎自信がもてるようにうなずく。 ・児童が発表したものが他の子に分かりにくい場合には、写真やイラストを提示して確認する。 ・見付けた工夫を発表する時に、その理由も発表するように声を掛ける。
15	3 学習の振り返りを書き、発表する。 お店の工夫について分かったこと、 どうして、工夫をしているのかを書く。 ・並べ方にも、お客さんのためにいろいろ工夫していることが分かった。 ・いろいろなところから、商品を仕入れている。 ・お客さんが望んでいることをお店は工夫している。	(評価) 発表を通してとらえ直したスーパーマーケットの工夫について自分の考えを書くことができたか。 (思考・判断・表現) ◎発表する意欲をもてるように、机間指導でよい内容に下線を付ける。

(4) 評価

発表を通してとらえ直したお店の工夫について、自分の考えとして表現することができたか、発表やワークシートから判断する。(思考・判断・表現)

6 結果と考察

(1) 気付く(問題設定)段階

①「買い物しらべをしよう」

事前に家族への聞き取りをして「買い物調べ」を行い、ワークシート(資料1)には、「買い物をした店」と「行く理由」を記入させた。

授業で「買い物をした店」と「行く理由」を発表させ、教師が買い物をした店をグラフ(写真1)に表して、児童は、グラフから気付いたことを発表した。

グラフを見て、「Bの店とAの店、Cの店に行く人が多い」「いろいろな店に行く人がいる」、行く理由については、「安い、近い」という理由を発表する子どもが多かった。行く理由としては、その他に「品数が多い」や「新鮮だから」「駐車場が多い」というものが上がった。

授業を終えて、「BやAの店にたくさんの人が行っていることが分かった。近くて安いという理由が多かった」という内容を書いた児童が多かった。中には、「Bの店は近いし安いから便利だと思った。Aの店は夜の8時までやっているし、食べ物以外にもいろんなものが買えるからいいと思った」などと安い、近い以外にも考えを広げている子もいた。【思①】

事前にグラフの結果を教師は把握していたので、「みんなの家に近くて安いBの店があるのに、Bの店と同じ数くらいAの店に行く人が多いのはどうしてなのか」と問い掛けると、「品数が多いから」「新鮮なものがあるから」とすぐに反応があったが、そのあとは続かなかった。その後、児童から「Aに行ってみればいいじゃん」というつぶやきが続いていった。そこで、「どうしてAの店にたくさんのお客さんが来るんだろう」という学習問題(写真2)をみんなで追究していくことにした。

この問題に対して、児童は、「駐車場が広い」「品数が多い」「食べ物以外のものがおいてある」と予想を立てていたが、店で働いている人や店の工夫までは目が向いていなかった。

(2) 調べるⅠ(問題追究)段階

②「見学の計画を立てよう」

見学の計画を立てる前に、児童に調べたいことについて聞くと、「お客さんが何人くるのか」「お客さんが何を買っているのか」「お客さんは、いくらく

資料1 買い物調べワークシート

写真1 買い物調べの結果のグラフ

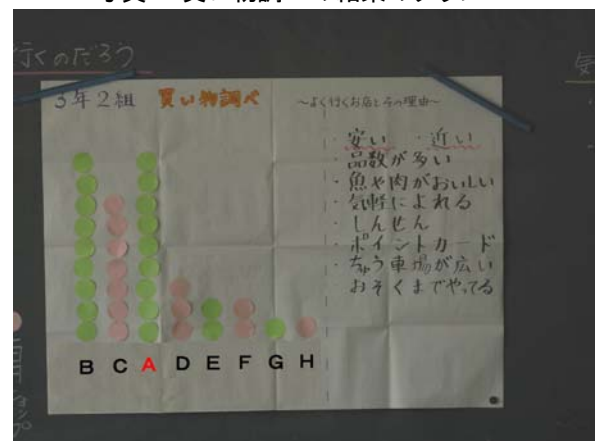


写真2 問題設定の場面



- ・何が売っているのか。
- ・食べ物以外には何が売っているのか。
- ・店の中の様子
- ・お客さんの様子
- ・音楽、 ちらし

- ・何をしているのか。
- ・商品を出している人
- ・レジの人の仕事
- ・どんな仕事があるのか。

「買いしているのか」など、お客についての調査項目が多く出た。教師の意図する「店の様子」や「働いている人の様子」に目を向かせるため、二つの視点「店の様子」「働いている人の様子」を意図的に与えた。すると、児童は、店と働いている人を観察してくることを理解し、「店の様子」では、「何が売っているのか。店の中の様子はどんなか」、「働いている人の様子」では、「どんな仕事があるのか。レジの人の仕事はどんなことか」など、自分なりの観察の視点をもつことができた。

③「Aスーパーに見学に行ったよ」(写真3)

「店の様子」と「働いている人の様子」に注目させるために、開店の 40 分前に出掛けた。お客が来る前であったので、店の中を落ち着いて見ることができた。「店の様子」や「働いている人の様子」について意欲的に調べ、ワークシート（資料 2）にメモをすることができた。

見学後、「なぜAスーパーにたくさんの人が買いにくるのか」と聞くと「チラシがあったからだと思う」「新鮮な野菜があるからだと思う」「洗剤やトイレトペーパーがあるからだと思う」などと見学で観察してきたことを理由に挙げる子どもが多かった。さらに、「温めるための電子レンジがあった」と、見てきたことを基に考えを広げている姿が見られた。

④「見学で見つけたものをまとめよう」(発表の準備)

見学ワークシートの中から、発表するものを選び、付箋紙に書かせた。その付箋紙を店内絵地図に貼ることで、発表しやすくなると考えたからである。みんなに知らせたいものを選んで用意することができた。

⑤「1回目の見学で見つけたものを発表しよう」

「店の様子」と「働いている人の様子」について見付けたものの発表をした（写真4）。

はじめに、店の様子について、「アイスクリームがあった」「さんまがあった」「洗剤があった」などの商品の発表が続いた。

次に、「電子レンジ」「地図」「冷蔵庫」「リサイクルボックス」などの商品以外に店にあったもの、さらに、「歌が流れていたこと」や「店内にタイムサービスと書いた紙があった」と次々と発表が続いた。

「働いている人の様子」では、「レジの練習をする人がいた」「お金を分けている人がいた」「電源を入れて、調

写真3 Aスーパーでの見学



資料2 買い物調べワークシート

[illegible]

写真4 Aスーパーでの見学についての発表



子を整えている人がいた」など、レジで働いている人に関連する意見が出された。次に、「値段を変えている人がいた」「割引シールを付けていた人がいた」、さらに「商品がつぶれないように並べている人がいた」や「店が始まってからも準備をする人がいた」などの気づきが発表できた。

付箋紙を使用したことで、一つの項目に関連した内容を発表でき、児童はとても意欲的であった。発表後、友達の意見を聞いて分かったことが増えたという感想が多かった。

そして、「どうしてAスーパーにたくさんのお客さんが来るのだろうか」と質問すると、「近い」「安い」「品数が多い」に加えて「看板がぶら下がっていたり、地図があつたりする」などの店の工夫についての気づきが増えていた。

児童の「電子レンジはお客さんが温めることができるように置いてあった」という気づきを取り上げ、「こういうのを店の工夫というのだよ」と説明すると、児童は『工夫』の意味を感じ取ることができた。そこで、「Aスーパーには、どんな工夫があるのかをもう一度見付けに行こう」と教師から提案すると、「行きたい」という歓声が上がった。

(3) 調べるⅡ（問題追究）段階

⑥ 「Aスーパーの工夫を見付けに行こう」2回目の見学計画

2回目の見学で、店の工夫を見付けに行くための話し合いを行った（写真5）。

『工夫』として、「並べ方の工夫」「表示（値札）の工夫」「仕入れの工夫」「店の工夫（施設）」という視点を考えていた。児童の多くが、「店の工夫（施設）」には着目できたが、それ以外には目が向かなかった。そのため、教師が見学の視点として、「並べ方の工夫」「表示（値札）の工夫」「店の工夫」の三つを挙げた。

その後、再度、ワークシート（資料3）に見学で何を見てく

るのかを書かせた。教師が「表示（値札）」と「並べ方」の工夫について視点を示したので、ほとんどの児童がワークシートにそれらの二点を「調べること」として挙げていた。【思①】

「値札のところに料理の作り方が書いてあったり、絵や写真で紹介してあったりするのを見てきたいです」や「商品の並べ方を調べたいです。〇〇君が言っていたリサイクルボックスも見てきたいと思いました」などと具体的な内容を計画する児童もいた。【思①】

⑦ 2回目の見学

一人一人の計画に従って、見学を行った。店内を観察したり、働いている人やお客に聞き取りをしたりした。商品の並べ方と施設の工夫について、児童は、とても意欲的に調べることができた。肉のコーナーを見

写真5 「くふう」見付けの見学計画



資料3 見学ワークシート

Aスーパー 見学カード		3年 組 名前
見学の計画を立てよう！ ～何を見てみようかな？～		店の様子
①		
②		
③		
はたらく人の様子		

写真6 「工夫」探しの見学の様子



学していた一人が、肉のパックが斜め角度に陳列されていることに気付いた。そして、「どうして斜めに置いてあるのか」と働いている人に聞くと、「お客さんに、よく見えるようにだよ」と答えを得た（写真6）。また、飲み物コーナーでは、ペットボトルが逆さに置いてあったり、斜めに置いてあったりしたことに、

工夫ではないかと気付く児童もいた。お買い得シールを見付け、『お買い得』の意味を聞く児童もいた。

事前の計画で、視点を明確にして自分の計画に合わせて調べた児童もいたが、「お店の工夫」と「並べ方」の工夫について調べている児童がほとんどであった。三年生の児童には、

その場で見るものが工夫としてとらえやすいようであった。特に、並べ方に注目する児童が多く、教師が着目させたかった「値札の工夫」については、漢字で表示してあり、内容を理解することができず、十分に着目できなかった。

⑧ 見学のまとめ

児童には、調べてきた工夫がうまく分類できずに、ワークシートに記入されていたので、教師が五つの観点に分けて、その観点到に合わせて児童が発表できるように用紙に準備させた。また、工夫されていることが、お客の願いと結び付いていることにつながるように、「どうして工夫と言えるのか」についても発表できるようにした。すると、「並べ方の工夫」では、「お肉が斜めに並べてあった。理由は、お客さんが見やすくて買ってもらうため」や「違うものと混ざらないようにきれいに並べてあった。理由は、きれいだと取りやすいから」などと書くことができた（資料4）。

「店の工夫」では、「天井に看板がぶら下がっていた。理由は分かりやすくするため」や「冷蔵庫からビニールシートが垂れ下がっていた。理由は商品が傷付かないため」などとまとめることができた（資料5）。

⑨ 工夫についての発表

五つの視点到に合わせて、児童は、「工夫」を発表していった（写真7）。

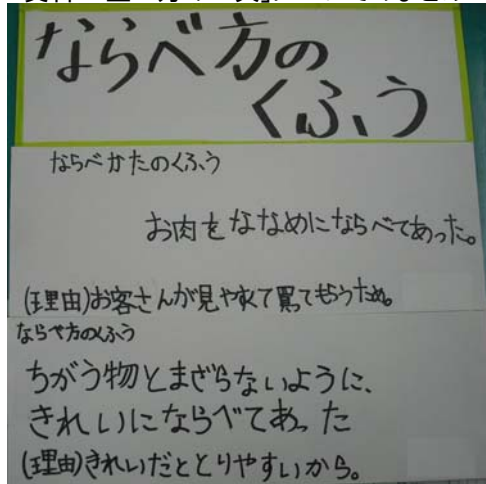
お店の工夫で見付けたことの発表は意欲的だったが、なぜ工夫されているかに関心を示す児童は少なかった。それは、まとめの段階の記述からも分かる。「お店の工夫で分かったこと・どうして工夫しているのか」について、「わたしは、お肉が斜めに並べてあったのを見付けました。お肉が斜めに並んでいたら取りやすいし、値段が見やすい」と自分の見付けた内容を深めたり、「〇〇君が見付けたシールの機械はすごい」「〇〇さんが言った、人気の食べ物には看板が付いていた」など友達の意見から新たな工夫に目を向けたりして書くことができた。しかし、なぜ工夫しているのかについてまで深く言及しているまとめは少なかった。

また、「ペットボトルがどうして逆さになっているのか知りたかったです」などの感想もあったが、工夫をしている理由についての理解が不十分で、お客の願いにまで結び付けられなかった。

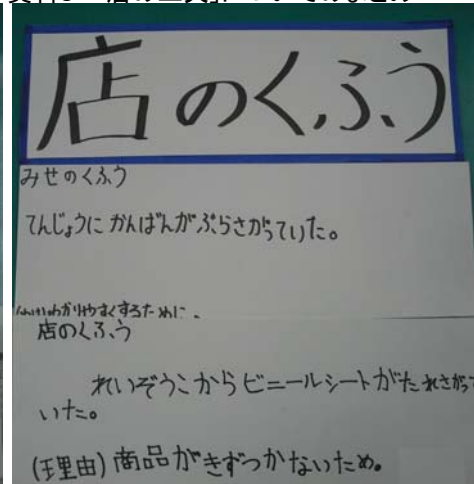
そこで、再度「工夫」について目を向けさせ、お店の工夫が、お客のためやお客の願いのために行っていることだと確認することで、「お客さんが買いやすくなるため」や「お客さんに喜んで買ってもらえるようにだ」など、「お客さんのための工夫」ということに目を向けることができた。【思②】

- ・はたらく人たちの工夫
- ・並べ方の工夫
- ・ねふだの工夫
- ・お店の工夫
- ・その他の工夫

資料4「並べ方の工夫」についてのまとめ



資料5「店の工夫」についてのまとめ



お店の工夫

- ・ビニールシートが冷蔵庫にかぶせてあった。
- ・避難経路の案内図があった。
- ・ぶどうが袋に包んであった。
- ・リサイクルボックスがあった。
- ・うなぎがあるところに看板があった。
- ・人気の食べ物は、看板まであった。
- ・割引の値段があった。
- ・天井から看板がぶら下がっていた。
- ・天井から歌、それに声が聞こえてきた。
- ・商品や魚や肉やお菓子を安くしている。

並べ方の工夫

- ・ジュースが逆さに入っていた。
- ・とりやすく並んでいた。
- ・違う物と混ざらないようにしてあった。

値札の工夫

- ・お値打ち品と書いてあった。
- ・30%引きのものがレジの隣にあった。
- ・お買い得品と書いてあった。
- ・値札の色が三色で見やすい。

働いている人の工夫

- ・値段のシールを印刷している人がいた。
- ・朝、レジを掃除してお金を入れていた。
- ・安いときには、たまねぎを1500個仕入れて安く売り、高いときには、300個しか仕入れない。

その他の工夫

- ・他の国から来ているものもあった。
- ・いろいろな国からの魚があった。
- ・うなぎは、たれがついていたのに隣にたれまで売っていた。

写真7 工夫についての発表



- ・お肉が斜めに置いてあった。
- ・きれいに並べてあった。

(4) まとめる（問題解決）段階

⑩ 学習のまとめをしよう

単元を通しての問題「どうしてAの店にたくさんのお客さんが来るのだろう」について、学習したことを基に、意見を出し合った。

話合いの中で、学習全体を振り返って問題の答えを出すよりもお店の工夫の「案内の看板が天井からぶら下がっているから」とか「ビンや肉を斜めに置いていたから」「いろいろな産地から仕入れて選びやすいようにしているから」などの工夫の一つ一つについて、発表する児童もいた。

全体的に見ると「安いし、近いし、お客さんのための工夫がたくさんあるから」という意見に集約され、その中でも「お客さんのための工夫があるから」という理由が多く出てきた。それは、店の工夫について、単元を通して着目させてきたからであると考えられる。児童の中には、学校の近くにある他の店と比較して、「Bの店よりも閉店する時間が遅いから夜仕事をして買い物をする人がいて便利」「Bの店にないものがあるから」と、単元終了時に改めて「工夫」と結び付けて多くのお客が店に来る理由として挙げることができた（資料6）。【思②】

資料6 見学のまとめワークシート

3年 社会 「どうして?」スーパーにたくさんのお客さんが来るんだろう

見学のまとめ

3年 組 番 名前 ()

店の様子や はたらいっている人の様子を 発表し合って わかったこと・思ったこと

どうして A スーパーにはたくさんのお客さんがくるんだろう

7 単元中における「思考・判断・表現」の評価の判定基準及び評価

(N=19)

時	【思考・判断・表現】における判定基準と評価事例	判定人数		
		A	B	C
①	買い物調べのグラフを見て気付いたことを話し合う。 《B判定》グラフの結果から、行く店や理由に目を向けて学習問題を考えている。 《A判定》グラフの結果から、行く店や理由に目を向けて学習問題を考え、理由についての考えを広げている。 (例) B MやAのお店にたくさんの人が行くことが分かった。近くて安いというのが行く理由で多かった。 A Mは、近いし安いから便利だと思った。Aは、8時までやっているし、食べ物以外にもいろんなものが買えるからいいと思った。	3	15 ☆指導に生かす評価	1
⑥	スーパーマーケットの見学の計画を立てる。 《B判定》スーパーマーケットの工夫について見学の視点を意識している。 《A判定》スーパーマーケットの工夫について見学の視点をもち、友達の意見から更に新しい見学の視点をもったり、自分の視点を更に詳しく調べようとしたりする視点をもつことができる。 (例) B 値札のところに料理の作り方が書いてあったり、絵や写真で紹介したりしてあるのを見てきたい。 A 次の見学で商品の並べ方を調べたい。〇〇君が言っていたリサイクルボックスも見てきたいと思う。	0	14 ☆指導に生かす評価	3
⑨	スーパーマーケットの工夫について考える。 《B判定》スーパーマーケットの工夫について、なぜ工夫になるのかを、自分が調べた内容をお客さんの願いと結びつけて考えている。 《A判定》スーパーマーケットの工夫について、なぜ工夫になるのかを自分の調べたことだけでなく、友達の意見を参考にいろいろな面から考え、更にそれをお客さんの願いと結びつけて考えている。 (例) B 肉が斜めに並べてあったのを見付けた。お肉が斜めに並んでいたら取りやすいし、値段が見やすいと思った。これは、お客さんに買ってもらえるようにだと思ふ。 A 肉が斜めに置いてあるとか、混ざらないように置いてあるとかを見付けたけど、商品が取りやすく並んでいたという意見もあった。どうして工夫してあるかという、お客さんに喜んで買ってもらえるようにだと思ふ。 スーパーマーケットにたくさんの人がくる理由を学習したことを基に発表する。	3	10 ☆指導に生かす評価	6
⑪	《B判定》スーパーマーケットにたくさんの人が来る理由について、スーパーマーケットの工夫などにあることに気付くことができる。 《A判定》スーパーマーケットにたくさんの人が来る理由について、スーパーマーケットの工夫などにあることに気付き、お客さんの願いと結び付けていることを考えることができる。 (例) B お客さんに聞いたら「近いし、安い」と言っていた。私は、たくさんの工夫があるからだと思ふ。 A 安いし近いし、お客さんのために商品を取りやすく並べてあったり、看板があって見やすくしたりして工夫がたくさんあるから。閉店する時間が遅いから夜仕事をして買い物をする人たちにとても便利だからだと思ふ。	6	10 ★記録に残す評価	3

※単元の評価計画における「思考・判断・表現」の評価について

☆指導に生かす評価・・・単元の途中である第1・6・9時の「思考・判断・表現」の評価は、その結果から次の学習につなげる助言を行ったり、達成できなかった子への支援策をとったりするための指導に生かした。

★記録に残す評価・・・第10時の「思考・判断・表現」の評価は、結果を記録に残した。

8 単元の定着度の評価

単元の終了の2か月後に、「商店のしごと」について、2問の定着テストを行った。予告なしで、教科書やワークシートも参考にせず、テストの時間は20分間とした。また、文章表現による記述式のテストで、使用させたい用語の提示も行わず実施した。

設問は、単元で学習した内容の中で、集客の理由と店の工夫について、消費者の立場と販売の立場からそれぞれの事柄と関連付けながら記述させるものである。これは、思考力・判断力・表現力が確実に身に付いているかを測定するテストである。3年生であることも考慮し、児童が分かったことや考えたことをそれぞれの事柄を比較、関連付けて短文で表現できていればよしとした。

設問① お客さんがたくさん店に来るわけについて、できるだけたくさん書きなさい。

★ 使用させたい用語

- ①安い ②近い ③新鮮 ④営業時間が長い ⑤品物が豊富 ⑥品物が選びやすい
⑦売り出しの広告 ⑧広い駐車場 ⑨リサイクルしやすい ⑩働いている人の工夫がある

★ 解答例

- (1) 安いから。
(2) 新鮮だから。
(3) 近くて便利だから。
(4) 品物が多いから。
(5) 広告があるから。
(6) 広い駐車場だから。
(7) 店が開いている時間が長いから。
(8) 働いている人の工夫がたくさんあるから。

★ 使用したループリックと判定結果

判定	設問①における思考・判断・表現の段階	判定人数
A	お客が来るわけについて、用語の5点以上の理由を比較、関連付けて説明することができる。	1
B	お客が来るわけについて、用語の2～4点の理由を比較、関連付けて説明することができる。	16
C	お客が来るわけについて、用語の1点の理由を比較、関連付けて説明することができる。又は説明できない。	2

設問② スーパーマーケットのくふうについて、その理由もいっしょに書きなさい。

★ 使用させたい事柄・用語

- ①シール ②避難経路 ③カート ④ビニールシート ⑤値札の色 ⑥レシピの説明
⑦並べ方 ⑧産地名

★ 解答例

- (1) 店の工夫で、買ったものを温めることができるように電子レンジを置いてある。
(2) 働いている人の工夫で、お買い得のシールを貼って、お客さんに分かりやすいようにしている。
(3) 値札の工夫で、色を付けてお客さんに分かりやすいようにしている。
(4) シールが貼ってあって、安い品物がお客さんに分かりやすい。
(5) 避難経路が示されておりお客さんの安全を考えている。

- (6) 肉を斜めに並べて、見やすいようにしている。
- (7) いろいろな産地から仕入れて、選びやすいようにしている。
- (8) 売り場に置いてある食材を使ったレシピを紹介している。

★ 使用したルーブリックと判定結果

判定	設問②における思考・判断・表現の段階	判定人数
A	店の工夫について、用語の4～5点について比較、関連付けて説明できる。	10
B	店の工夫について、用語の2～3点について比較、関連付けて説明できる。	5
C	店の工夫について、用語の1点について比較、関連付けて説明できる。又は説明できない。	4

《総括評価の結果における考察》

- ・設問①は、「安い」「近い」「工夫がある」「広い駐車場がある」のうち、三つの項目を書いた児童がほとんどであり、学習で実感した内容が含まれていることが分かる。
- ・設問①の設問は、「なるべくたくさん」という言葉を使ったが、「五つ以上」と具体的な数字を示すと児童にとっては答えやすかったのではないかと考える。
- ・設問②は、授業の中で店の工夫していることについて、その理由も含めて学習したことが、きちんと知識として残っており、その知識を活用した論述をしていることが実証されたと考える。

9 成果と課題

(1) 成果

① 問題解決的な学習による意欲的な学習の取組

初めての問題解決的な学習であったが、単元を通して意欲的に学習できた。それは、導入の買い物調べが、身近なスーパーマーケットに対する興味につながったからである。そして「どうしてスーパーマーケットにたくさんのお客さんが来るのか」の問題は、教師が用意したものであったが、1時間目の買い物調べの授業の流れの中で自分たちの問題としてスムーズに意識することができた。

その後、「1回目の見学→まとめ→発表→2回目の見学→まとめ→発表→全体のまとめ」と学習が進めたが、1回目の見学から発表に至る学習の経験をしたので、2回目の見学では、何をしていくのかの見通しがもて、さらに、2回目の見学の「お店の工夫探し」では、1回目の見学が活かされ、観察する眼も育ってきたので、最後まで意欲的に学習に取り組むことができた。

② 指導に生かすことができる評価へ

「社会的事象（学習問題）についての思考・判断・表現」を評価するのに、本単元では、四つの段階で評価をしたが、段階を経るにしたがって、児童がどこまで規準が達成されているかについて、教師が把握することができ、次の時間の指導に生かすことができた。

③ 体験的な学習による知識の定着及び説明

着目させる「店の工夫」について、話し合って見学の計画を立て、焦点を絞って見学や聞き取り調査をする学習を通して、確実な知識を獲得することができた。また、2か月後に実施した定着テストでは、体験的な学習や友達との協同学習で得た知識を比較、関連付けてスーパーマーケットの工夫を説明することができていることが分かった。

(2) 課題

① 表現活動における記述の仕方の工夫

「思考・判断・表現」の評価について、単元の四場面で評価をした。その時に、「分かったことや思ったこと」などを書かせたが、教師の意図するような文を書ける子どもが少なかったため、3年生段階では、例えば「お店のどんな工夫がありましたか」とか「その工夫はどうしてあるのですか」と

か、実際に発問を書いて答える形にしたり、例文を示したりするなどの工夫が必要であると考える。

② 記録に残す評価の方法

評価については、学習途中でどの段階までできているのかを把握するのは大事であるが、特に「思考・判断・表現」の観点では、本研究の試行として、学習の最後に達成できればよいのではないかと考える。

例えば、本単元では、単元後に書かせた「スーパーマーケットへのお礼の手紙」（資料7）の中に、学習の振り返りが見られるので、ここで評価する方法もよいと考える。

③ 学習内容と評価の見直しの必要性

スーパーマーケットにたくさんの人が来る理由について、スーパーマーケットの工夫にあることに気付くことができたが、工夫がお客様の願いと結び付いていることについては、授業の中で押さえたにもかかわらず、まとめの記述にはほとんどなかった。さらに、販売の仕事の特色や自分たちの生活が支えられていることについての感想がなかったのは、学習内容や評価の仕方に問題がある。

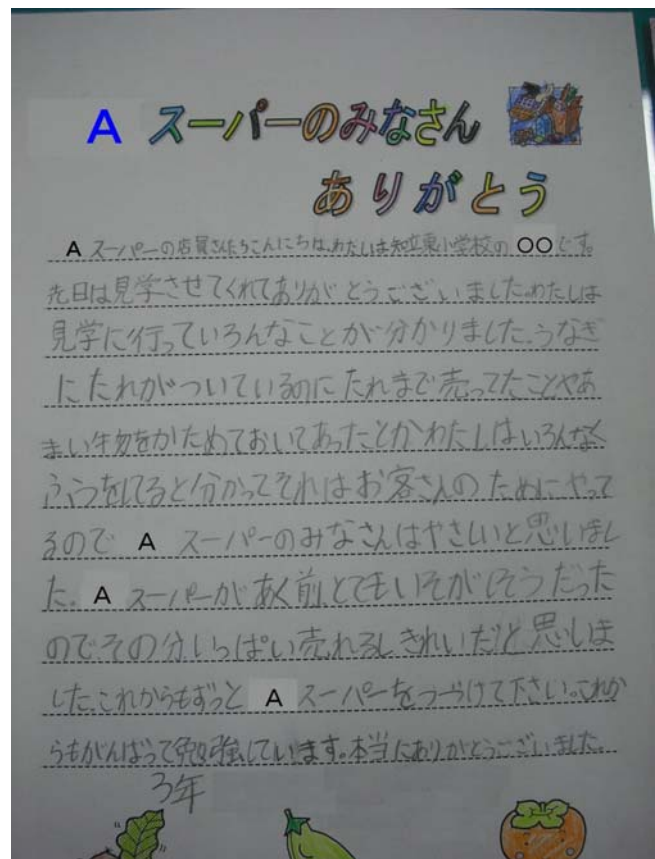
④ 判定基準の提示の必要性

児童の主体的な学習のためには、どこまでできれば、A判定、B判定になるかを知らせていく必要がある。

⑤ 学年の段階による学習の視点や観点の与え方

3年生の段階では、見学の視点やまとめる観点を、初めから教師が与えていくとよい。

資料7 見学のお礼の手紙



【検証授業Ⅱ】

津島市立北小学校 5年

1 単元 自動車工業のさかんな地域

2 単元について

本学級の児童は、男子12人、女子12人の合計24人である。多くの児童が、写真資料からその様子を理解したり、そこにあるものに気付いたり、グラフから数値や変化などの情報を読み取ったりできるようになってきている。しかし、学習問題を解決するための必要な情報を収集し、それらを選択、活用する力はまだ不十分であると言える。学習問題を解決していく中で、必要な情報をどのように収集し、選択していくのか、それらをどのように活用していくのかを学ばせていきたい。また、学習した社会的事象について、単なる語句としての理解にとどまらず、それぞれを関連付けたり、因果関係を考えたりする学習を通して、社会的事象の意味について考える力や、調べたことや考えたことを表現する力を育てたい。

本単元は、児童にとって身近なものであり、国民生活を支える重要な役目を担っている自動車工業を通して、国民生活を支える重要な役割を果たしている我が国の工業生産について学習する。そこで、日本の代表的な工業である自動車工業をもとに、生産の様子や生産を高めるための工夫、働く人々の努力や工夫、部品工場との関連、自動車が出荷されるまでの流れについて理解させ、更にこれからの新しい自動車づくりについて考えさせていきたい。

学習の導入段階で、学習内容について、児童に興味・関心をもたせることが大切だと考える。そのために、児童が「えっ、どうしてだろう」「なぜだろう」などと驚いたり、疑問をもったりするような資料を提示し、学習に対して主体的に取り組むようにさせたい。「知りたい」「調べたい」という思いを大切に、そこから具体的な学習問題を設定する学習活動を展開したい。また、具体的な学習問題に対して、今までの経験や知識を基に予想を立て、それを確かめるために資料や見学を活用させたい。問題解決への取組については、「個別学習」から「グループ学習による追究活動」、さらに「一斉学習」による共有化、最後に「個別学習」によるまとめを行い、学習した消費者ニーズ、環境問題、エネルギー問題などを考慮した自動車生産について、今後の在り方を自分の言葉でまとめさせたい。

3 単元目標と評価規準

(1) 単元目標

自動車工業を通して、我が国の工業生産について意欲的に調べ、従事している人々が消費者の需要に応え、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解するとともに、工業生産と国民生活を関連付けて考えたことを適切に表現する。

(2) 評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
評価 規 準	①自動車生産の様子に関心をもち、意欲的に調べ、学習問題を解決しようとしている。 ②国民生活を支える工業生産の発展を考えようとしている。	①自動車工業の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ②自動車工業の様子と国民生活を関連付けて、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、適切に表現している。	①工場見学や統計などの資料を効果的に活用して、自動車生産の様子や自動車製品について必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことをレポート作品などに分かりやすくまとめている。	①自動車工業に従事している人々の様々な工夫や努力を理解している。 ②自動車工業に代表される工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

4 単元計画と評価計画（12 時間完了）

時	主な学習内容と学習活動	おおむね達成（B）	十分達成（A）
気付く （問題設定） 【一斉】 ①	○自動車生産についての共通学習問題（単元を通しての共通の学習問題）を解決するための具体的学習問題（児童が個別に取り組む学習問題）を製造・働く人・新しい自動車の三つの視点で設定し、学習計画を立てる。①本時	思① 自動車生産に関心を持ち、共通学習問題を解決するための具体的学習問題を設定している。	・自動車生産に関心を持ち、共通学習問題に対する予想を立て、自動車生産についての具体的学習問題を理由を付けて設定している。
	【共通学習問題】 自動車は、どのようにつくられているのだろうか。		
調べるⅠ （問題追究） 【二斉】 ②計画 ③④見学 【個別】 ⑤⑥まとめ 【グループ】 ⑦まとめ	○自動車生産について見学して調べてみたいことを出し合い、自動車工場の見学計画を立てる。② ・自動車のつくり方 ・働いている人のようす ・新しい自動車の開発 ○自動車がどのようにつくられているか自動車工場の見学をする。③④ ・工場の中が、いくつかに分かれている。 プレス工場、溶接工場、塗装工場、組み立て工場 ・働いている人の数は少なく、ロボットが活躍している。	思① 学習問題を解決するために、どんなことを見学して調べるとよいのかを書いている。 技① 学習問題を解決するために見学したり、調べたりしている。	・学習問題に対する予想を立て、どんなことを見学して調べるとよいのかを見てくること、聞いてくることに分けて、具体的に書いている。 ・自分の予想を検証するような視点で見学をしている。
	○見学したことをもとに、自動車生産について分かったことを製造・働く人・新しい自動車の三つの視点でまとめ、さらに詳しく調べてみたいことをインターネットなどで資料を集め、調べる。⑤⑥ ・組み立て工場の様子 ・関連工場について ・完成した自動車のゆくえ	関① 自動車生産の様子に関心を持ち、意欲的に調べ、学習問題を解決しようとしている。 技② 調べたことを分かりやすくまとめている。	・見学後のまとめの段階で、更に疑問をもったことを調べ、学習問題を解決しようとしている。 ・調べたことだけでなく、自分の予想との比較や更に疑問をもったことなども合わせてまとめている。

	○グループ内でまとめたものを持ち寄り、一枚のシートに分類し、分かったことを確認し合う。⑦	知① 自動車生産の仕組みと働く人の工夫や努力を理解し、発表の準備をしている。	・自動車生産の仕組みと働く人の工夫や努力を関連付けて理解し、発表の準備をしている。
調べるⅡ (問題追究) 【一斉】 ⑧ ⑨発表・交流 【一斉】 ⑩ ⑪交流	○自動車生産について調べ、まとめたことを学級全体に発表し、分かったこと、更に疑問に思ったことを出し合う。⑧⑨ ・短い時間でたくさん生産される仕組みだ。 流れ作業、関連工場、組立ライン、2交代制 ・たくさんの国で、日本の車をつくっている。外国で生産するのは、なぜだろう。 ・外国で生産できなくなったら、どうなるのだろう。	知① 多様なニーズに応えるための生産の工夫や努力が分かっている。	・多様なニーズに応えるための生産の工夫や努力を理解したうえで、そこから生じる疑問を考えている。
	○自動車生産について、さらに疑問に思ったことを調べ、解決する。⑩⑪	知② 自動車工業が国民生活に重要な役割を果たしていることが分かっている。	・自動車工業が国民生活に重要な役割を果たしていること、今後も社会のニーズに応えようとしていることが分かっている。
まとめる (問題解決) 【一斉】 ⑫	○自動車生産について学んだことを生かして、これからの新しい自動車を考え、発表し合う。⑫ ・社会や消費者のニーズを考えた自動車づくりが大切である。 ・環境を守る自動車をつくらなければならない。	関② 自動車工業を通して、国民生活を支える工業生産の発展を考えようとしている。 思② 学んだことを生かしてこれからの自動車について考えている。	・工業生産の発展について、環境問題などの視点も交えて、考えようとしている。 ・社会や消費者のニーズ、環境を守るなど、学んだことを関連付けて、総合的にこれからの自動車について考えている。

5 本時の指導

(1) 目標

自動車生産について調べてみたいことを出し合い、各自が具体的学習問題を設定し、学習計画を立てることができる。

(2) 準備

教師 ワークシート・自動車の写真・自動車生産台数のグラフ・自動車保有台数のグラフ自動車の組み立て工場の分布図

(3) 指導過程

時間	児童の活動	教師の活動（・教師の支援）
10	1 初めて生産された自動車から現在の自動車までの写真，自動車生産台数のグラフ，自動車保有台数のグラフ，自動車の組み立て工場の分布を見て，気付いたことを話し合う。	・それぞれの自動車の違いや生産台数や保有台数の増加に気付かせ，生活に欠かせない自動車がどのようにつくられているのかについて関心をもたせる。
5	2 本単元の共通学習問題を設定し，予想を立てる。 「自動車はどのようにつくられているのか」	・共通学習問題とそれに対する予想をワークシートに記述させる。
2	3 本時の課題を知る。 自動車生産について調べる学習計画を立てよう。	
15	4 「自動車はどのようにつくられているのだろうか」という共通学習問題を解決するために，具体的学習問題を考え，発表する。 ・自動車のつくり方 ・自動車の生産台数 ・自動車の部品 ・働く人のようす ・働く人の工夫や努力 ・働く人の仕事の時間 ・新しい自動車	・共通学習問題を確認し，個人の具体的学習問題を考えさせる。 ・自動車生産について，様々な視点から，具体的学習問題を出させる。 ・具体的学習問題をうまく考えることができない児童には，前単元の学習を想起させ，生産のようすや働く人の工夫などの視点で考えさせる。 (評価) 具体的学習問題を考えることができたか。
8	5 具体的学習問題を製造・働く人・新しい自動車の三つの視点からそれぞれ一つずつ選択し，選択した理由とともにワークシートに書き，発表する。	・具体的学習問題を製造・働く人・新しい自動車の三つの視点に分けて選択させる。 ・選択した理由をうまく書くことができない児童には，友だちの発表を参考にして考えさせる。
3	6 調べる方法を考え，ワークシートに書く。	(評価) 具体的学習問題を選択し，ワークシートに書くことができたか。
2	7 調べたいことをどのように調べ，解決していくのかを確認する。 ・インターネットなどによる資料収集 ・自動車工場の見学 ・まとめ ・発表	・前単元までの学習を想起させ，どのような方法で学習問題を調べていくのか考えさせる。 ・これからの学習の流れについて確認し，学習問題解決への意欲をもたせる。 ・友達の話聞いて，更に調べたいことが出てきた児童には，具体的学習問題を修正してもよいことを知らせる。

(4) 評価

自動車生産について調べるための具体的学習問題を考え，選択して学習計画を立てることができたか，ワークシートの内容から判断する。(思考・判断・表現)

6 結果と考察

(1) 気付く（問題設定）の段階

①「学習計画を立てよう」

導入で、大型テレビを使用し、時代別自動車の写真を提示し、時代とともに自動車が増え変化したことに気付かせるために、「それぞれの自動車の違いは何ですか」と問い掛けた。「屋根が付いた」「ライトが違う」「窓が付いた」「車の形が変わり、低くなった」などの意見が出て、自動車の変化に気付くことができた。そして、各時代の自動車の生産台数や保有台数、最高速度などの資料も提示して、自動車の性能もよくなり、大量に生産されるようになったことに気付かせ、自動車に対する興味・関心をもたせた。児童は、自動車生産の進歩に気付く、自動車生産について調べていくための共通学習問題

（単元を通しての共通の学習問題）と具体的学習問題（児童が個別に取り組む学習問題）を設定し、ワークシート（資料1）に記入した。

共通学習問題を設定する段階では、すぐに意見が出なかった。これは、問題解決的な学習にまだ慣れておらず、共通学習問題を児童がどのように表現したらよいのか、分からなかったためだと考えられる。

そこで、前単元の学習問題を思い出すようヒントを与えると、ようやく「自動車工場について調べよう」という共通学習問題が設定された。

具体的学習問題を、「製造」「働く人」「新しい自動車」という三つの視点で考えさせた。三つの視点は自動車生産の工夫・努力・進歩などについて学習させたい意図から、教師が与えた。三つの視点に絞ったことで、「車はどうやってつくられるのか（製造）」「働いているのは何人か（働く人）」「どんな車をつくろうとしているのか（新しい自動車）」など、より具体的な学習問題が出てきたと思われる（資料2）。みんなで出し合った学習問題の中から、各視点の学習問題を一つずつ選択させ、選んだ理由についても記述させた。理由を考えさせることにより、なぜ知りたいのかをはっきりさせ、学習意欲につなげることができると考えたからである。多くの児童が、問題を選択し、その理由を書くことができた。

資料1 学習問題設定ワークシート

自動車工業のさかんな地域 5年 組 ()

共通学習問題

<予想>

↓

具体的学習問題

製造

働く人

新しい自動車

調べる方法

資料2 発表された具体的学習問題

製造	・ どうやってつくられるのか。 ・ 部品の数はどれだけあるのか。 ・ どれくらいの関連工場があるのか。	・ 1台つくるのにどれだけの時間がかかるのか。 ・ 1台つくるのにどれだけの工場が必要か。 ・ 1日に何台できるのか。
働く人	・ 働いているのは何人か。 ・ 働いている人の年齢	・ 1日に働く時間はどれくらいなのか。 ・ 1台つくるのに何人必要か。
新しい自動車	・ どんな車をつくろうとしているのか。 ・ 未来の車はどうなっているのか。 ・ 1年でどれくらいの車が開発されているのか。	

(2) 調べるⅠ（問題追究）段階

② 「自動車工場の見学計画を立てよう」

具体的学習問題を解決するために、自動車工場の見学計画を立て、ワークシート（資料3）に記入させた。ここでは、工場でどんなことを見たり、聞いたりするのか、どのように調べるのかを明確にすることで、見学の目的をはっきりさせることができた。児童から以下のような見学の視点が出てきた。

「車はどうやってつくられるのか」

- ・どんな機械を使っているか。
- ・どんな部品を使っているか。
- ・何時間かかるか。

「働いているのは何人か」

- ・どういう作業をしているのか。
- ・男の人と女の人ではどちらが多いのか。
- ・みんないっしょに休憩するのか。

「どんな車をつくろうとしているのか」

- ・誰が考えているのか。
- ・調査するのか。
- ・お客さんに聞くのか。

③④「自動車工場の見学をしよう」

自動車工場では、工場の概要とプレス・溶接・塗装について説明を受けた後、組み立て工場を見学した。組み付けラインを通って行く間に、様々な部品が手際よく取り付けられ、自動車が出来上がっていく様子を間近に見ることができた。体験広場では、現場で開発された道具や装置を手に取り、体験することができた。ボルト一括組付け治具を手にした児童は、「こうするとボルトが一度に付けられて、便利だ」と、働く人の工夫を感じ取っていた。また、ボルト定量取り出し器を操作した児童は、「磁石に何個もボルトが付いてきて、手で1個ずつ取らなくてもいい」と快適に作業ができる工夫に感心していた。工場の人への質問では、「1台つくるのにどれだけの時間がかかるのか」「働いている人の年齢は何歳から何歳までか」「新しい車はどこで考えているのか」など、見学計画で調べようとした内容について聞くことができた。見学後、「自動車がどうやってつくられるか分かった」「たくさんの部品が取り付けられていた」「機械や道具を工夫して使っていた」などの感想を聞くことができた。

⑤⑥ 「見学したことをもとに、自動車生産について分かったことをまとめよう」

自動車工場の見学で調べて分かったことを、「製造」「働く人」「新しい自動車」の三つの視点について、視点ごとに3色の付箋紙に一枚ずつ一文で書かせた（資料4）。もう少し調べてみたい児童には、自動車会社の児童向けのサイトを利用して情報を収集させた。「部品の数は約3万個で4500種類ある」「部品を生産する関連会社は130社ある」「工場では働く人のアイデアで働きやすいラインをつくっている」「工場では18歳から60歳までの人が働いている」「今は環境にやさしい車をつくっている」「家庭で充電できる自動車ができた」など、分かったことを付箋紙に何枚も書いている姿が見られた。

(3) 調べるⅡ（問題追究）段階（交流）

⑦ 「自動車生産について分かったことをグループでまとめよう」

個人が書いた色別付箋紙をグループに持ち寄り、お互いに分かったことを伝え合いながら、1枚の

資料3 見学計画のワークシート

自動車工場の見学計画

5年 組 ()

○自動車工場で見学すること、聞いてくることを考えよう。

製造

働く人

新しい自動車

資料4 付箋紙に記述された分かったこと

部品の種類は
約4500種類

車の部品は、種類が
ちがってもほとんど部品は
同じ

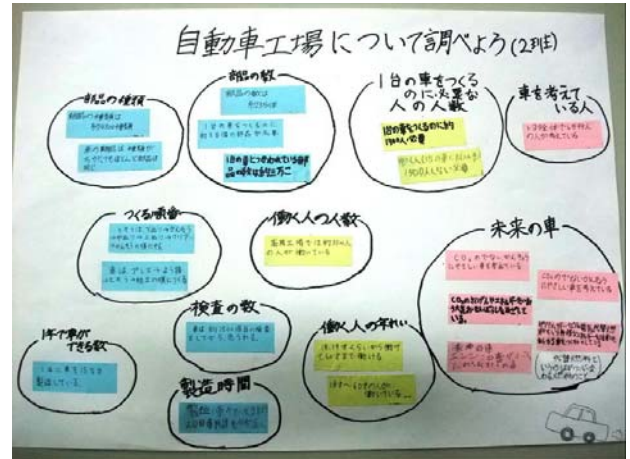
シートに分類しながら貼っていった（写真1）。ここでは、見学して分かったことが正確かどうかを話し合って確かめ、疑問点については調べ直すように指導した。次に、分類した付箋紙にタイトルを付け、何が分かったのかを明確にさせた。児童はそれぞれが書いてきた付箋紙を並べ、「これは同じことだから一緒に貼ろう」「どういうタイトル付けようか」「〇〇さんを書いてあることが違うな」などと話しながら、協力してまとめのシートを作成していった。うまくタイトルが付けられずに困っているグループには、「付箋紙に書いてある言葉をうまく組み合わせて考えるといいよ」と助言しながら、考えさせた。

完成したシートは、調べたことが項目ごとに分類されて、グループ全員でよく考えたタイトルが付けられていた（資料5）。まとめたシートは、次時の全体での発表会で使用することにした。

写真1 付箋紙を基にグループ内でまとめる様子



資料5 分かったことを分類してまとめたシート



⑧⑨「自動車生産について分かったことを発表しよう」

資料6 発表会聞き取りワークシート

自動車工場見学の手とめ 1 5年 組 ()	
○各グループの発表を聞いて、分かったこと、疑問に思ったことをまとめよう。	
製造	分かったこと
疑問に思い、さらに調べてみたくなったこと	
働く人	分かったこと
疑問に思い、さらに調べてみたくなったこと	
新しい自動車	
	分かったこと
疑問に思い、さらに調べてみたくなったこと	

第7時にグループで作成したシートを学級全体に発表し、交流した。「製造」については、「工場の種類、部品の数・種類、関連会社、車をつくる工程、生産台数、検査項目」など、「働く人」につ

いては、「年齢、人数、女性の人数、働く時間、働く人の工夫」など、「新しい自動車」については、「開発、エコカー、リサイクル、未来の車、誰が考えているのか」などを、各グループがまとめたことを発表した。発表が生かされるようにするため、ここでは各グループの発表を聞いて分かったこと、疑問に思ったことをワークシート（資料6）に書かせ、発表させた。発表を聞いて、「完成した自動車の検査を1500項目もすることが分かった」「2010年に約762万台も作られていることが分かった」「1班と2班で1台の車を作るのに必要な人数が違うからどちらが正しいんだろう」などの意見が出た。

疑問に思い、さらに調べてみたくなったことも多くの児童から出された（資料7）ので、次の時間にその疑問を解決していくことにした。また、この発表会では海外での自動車生産や輸出のことについては詳しく触れられなかったため、意図的に次時で取り上げることにした。

資料7 発表会後に出た疑問

二人以上の児童が書いた疑問	一人の児童が書いた疑問
・なぜ1500項目も検査するのか ・自動車1台をつくる人数 ・なぜこんなに部品が多いのか ・なぜ働いている女性が少ないのか ・なぜエコカーが売れているのか ・どうやってリサイクルしているのか ・どういう自動車をつくらうとしているのか ・未来の自動車はどうなるのか	・世界で何台生産しているか ・部品は海外から何個運ばれてくるか ・自動車の生産はなぜ少なくなったのか ・最も重要な検査項目は何か ・他の年の生産台数 ・部品の数、部品の種類 ・一つの工場にいくつラインがあるのか ・どれだけ工場があるのか

⑩⑪「疑問に思ったことを解決しよう」

資料8 更なる疑問を調べるためのワークシート

自動車工場見学のとまめ 2 5年 組 ()

○各グループの発表を聞いて、疑問に思ったことを調べよう。

製造

発表を聞いて疑問に思い、調べたこと

分かったこと

発表を聞いて疑問に思い、調べたこと

分かったこと

働く人

発表を聞いて疑問に思い、調べたこと

分かったこと

発表を聞いて疑問に思い、調べたこと

分かったこと

第8・9時で、二人以上の児童が挙げた疑問（資料7の左の項目）を取り上げ、児童に知らせた。資料を基に学級全体で調べ、分かったことを発表させた。取り上げた疑問と分かったことは、ワークシート（資料8）にまとめさせた。調べるための資料として、教科書、工場見学でのガイドブック、自動車会社の「クルマこどもサイト」で説明されているものを用意した。また、一人の児童が挙げた

疑問（資料7の右の項目）については、個人で調べることにした。

「品質のよい車を作るために1500項目も検査するんだ」「自動車1台を作るのに組立ラインでは、300人が働いている」「ボディやエンジンは鉄やアルミの材料となってリサイクルされる」など、資料から分かったことを発表することができた。

さらに、東日本大震災とタイの洪水の影響により、自動車生産ができなくなったニュースを取り上げた。これは、関連会社とのつながりや海外生産について、理解させたかったからである。「関連会社から、部品が届かないと車を作ることができなくなるんだ」「海外で自動車を生産するのは、外国の人に早く、安く車を届けることができるし、その国の人の働く機会を増やすことができるから」などの意見が発表され、組み立て工場は関連会社と密接に結び付いていることや自動車が海外で生産される理由を知ることができた。

(3) まとめる（問題解決）段階

⑫ 「これからの自動車を考えよう」

これまで学習してきたことを基にして、「これからの自動車」について、児童の考えをワークシートにまとめさせた。「製造の方法・工夫」「働く人のために考えたこと」「環境を守るために考えたこと」「使う人のために考えたこと」の四つの視点で考えさせた（資料9）。この四つの視点は、具体的学習問題を設定するときに挙げた「製造」「働く人」「新しい自動車」に対応させ、これまで調べてきたことを基に「これからの自動車」を考えさせるために教師が示した。

資料9 これからの自動車について考えをまとめるワークシート

資料10 ワークシートに記述された内容

◆製造の方法・工夫
・ 部品数を減らして、リサイクルしやすくする。 ・ 部品をリサイクルするときに、取り外しがしやすいようにねじなどを少なくするけど、壊れにくいようにする。
◆働く人のために考えたこと
・ 部品を付けるところを間違えないように色で分けてある。 ・ 女性でもつくれるように、軽くて簡単な車にする。
◆環境を守るために考えたこと
・ 今あるエコカーよりも、もっとCO ₂ を減らす車をつくり、環境を守る。 ・ ハイブリッドカーなどの環境にいい車の値段を安くしてそういう車をたくさん買ってもらえるようにする。
◆使う人のために考えたこと
・ 電気自動車の充電時間を短くする。 ・ 赤ちゃんやお年寄りのために、すごく静かで安全で振動を感じにくい車にする。

最後に、共通学習問題である「自動車はどのようにつくられているのか」について論述させた。論述の前に「自動車工業は今の私たちの暮らしにとってどういうものなのか、どのように結び付いているのか、学習してきたことを基に考えなさい」と指示した。すると、各自が考えたこれからの自動車

に加え、「自動車工業は私たちの暮らしがより安全で快適になるようにしているのもとても大切である」「自動車工業は、環境や消費者のことをよく考えて暮らしに便利なものをつくっている」など、自分の暮らしと結び付けて考えを論述できた。【思考②】

7 単元中における「思考・判断・表現」の評価の判定基準及び評価

(N=24)

時	【思考・判断・表現】における判定基準と評価事例	判定人数		
		A	B	C
①	自動車生産について具体的学習問題を選択し、ワークシートに書く。 《B判定》三つの視点で具体的学習問題を選択し、ワークシートに書いている。 《A判定》三つの視点で具体的学習問題を選択し、調べたい理由とともにワークシートに書いている。 (例) B 製造…どうやってつくられるのか。 働く人…つくるときにどんな工夫をしているのか。 新しい自動車…これからどんな自動車がつくられるのか。 A 製造…どうやってつくられるのか。 (理由) どのような部品を組み立てていくのか知りたいから。 働く人…つくるときにどんな工夫をしているのか。 (理由) 安全に仕事ができる工夫があると思うから。 新しい自動車…これからどんな自動車がつくられるのか。 (理由) どんな自動車が考えられているのか知りたいから。	9	14 ☆指導に生かす評価	1
②	自動車工場で見えてくること、聞いてくることをワークシートに書く。 《B判定》学習問題を解決するために、自動車工場で見えてくること、聞いてくることを書いている。 《A判定》学習問題を解決するために、自動車工場で見えてくること、聞いてくることを様々な面から具体的に書いている。 (例) B 「車ができるまで」という学習問題に対して、 ・ どのような部品があるか。 A 「車ができるまで」という学習問題に対して、 ・ 1台つくするのにどれだけ時間がかかるのか。 ・ 1年で何台つくられるのか。 ・ 1台の車にいくつ部品が必要か。	9	13 ☆指導に生かす評価	2
⑫	これからの自動車について、自分の考えをワークシートに書く。 《B判定》学んだことを生かして、「製造方法・工夫」「働く人のため」「環境を守るため」「使う人のため」のいずれかの視点で、これからの自動車について考えている。 《A判定》学んだことを生かして、「製造方法・工夫」「働く人のため」「環境を守るため」「使う人のため」の四つの視点で、総合的にこれからの自動車について考えている。 (例) B 部品の数を減らして、簡単につくれるようにする。 A 軽い部品をできるだけ使い、部品の数を少なくし、すべてをリサイクルできる部品でつくる。 ガソリンを使わないで、二酸化炭素を出さないなど、環境にやさしい自動車を安くつくる。	9	15 ★記録に残す評価	0

※単元の評価計画における「思考・判断・表現」の評価について

☆指導に生かす評価…単元の途中である第1・2時の「思考・判断・表現」の評価は、その結果から次の学習につなげる助言を行ったり、達成できなかった子への支援策をとったりするための指導に生かした。

★記録に残す評価…第12時の「思考・判断・表現」の評価は、結果を記録に残した。

8 単元の定着度の評価

単元の終了の1か月後に、「自動車工業のさかんな地域」について、2問の定着テストを行った。予告なしで、教科書やワークシートを参考にせず、テストの時間は20分間とした。また、文章表現による記述式のテストで、使用させたい事柄・用語の提示も行わず実施した。

設問は、単元で学習した内容の中で、製造の工夫や努力と消費者ニーズについて、製造者の立場と消費者の立場からそれぞれの事柄と関連付けたり、総合させたりしながら記述させるものである。これは、児童が分かったことや考えたことを事柄と関連、総合させながら表現できるかを測定する方法である。

設問① わたしたちの生活にかかせない自動車をつくる人々は、どのような工夫や努力をしていましたか。できるだけたくさん書きなさい。

★ 使用させたい事柄・用語

- ①大量生産の工夫（機械・ロボット・組み立てライン） ②関連工場とのつながり
- ③新しい技術の開発 ④自動車の輸出 ⑤海外での現地生産
- ⑥安全な自動車，人や環境に優しい自動車（消費者や社会のニーズに合う自動車）
- ⑦道具の開発

★ 解答例

- (1) 組み立て工場で、機械やロボットを使って、関連工場から来た部品を取り付け、たくさんの検査をして、安全で品質のよい自動車をつくっている。
- (2) 消費者のニーズに応えるために、新しい技術の開発と新しいデザインの設計をしている。
- (3) 空気をできるだけよごさない、人や環境に優しい車づくりをしている。
(ハイブリッド車や電気自動車の生産をしている)
- (4) 外国の人にも買ってもらうために、自動車を輸出したり、海外での現地生産や販売をしたりしている。
- (5) 組み立てラインで使う道具を開発して、安全に、正確に作業をしている。

★ 使用したルーズブリックと判定結果

判定	設問①における思考・判断・表現の段階	判定人数
A	4～5点の事柄について関連付けて、説明できる。	0
B	2～3点の事柄について関連付けて、又は列挙して説明できる。	16
C	1点の事柄を説明できるか、又は説明できない。	8

設問② これから日本の自動車工業が発展するためには、どんな自動車づくりが大切だと思いますか。製造の方法や工夫，働く人のため，環境を守るため，使う人のための四つの視点で書きなさい。

★ 使用させたい事柄・用語

- ①安全な自動車，人や環境に優しい自動車（消費者や社会のニーズに合う自動車）
- ②環境を守る ③新しい技術の開発（電気自動車・燃料電池自動車など）
- ④資源を大切に使う（燃費のよい自動車） ⑤リサイクル ⑥外国での生産，販売

★ 解答例

- (1) 少ないガソリンで、たくさんの距離を走る自動車をつくるのが大切である。
- (2) ガソリンを使わないで、電気や水素・酸素などを使って走る自動車をたくさんつくり、環

境を守ることが大切である。

(3) 部品を減らして、値段の安い自動車をつくることが大切である。

(4) 資源を大切に使うために、ほとんどの部品をリサイクルできる自動車づくりが大切である。

(5) 外国でも多く販売できるような性能やデザインのよい自動車をつくることが大切である。

★ 使用したルーブリックと判定結果

判定	設問②における思考・判断・表現の段階	判定人数
A	4点以上の事柄について関連付けて、説明できる。	8
B	2～3点の事柄について関連付けて、又は列挙して説明できる。	14
C	1点の事柄を説明できるか、又は説明できない。	2

《総括評価の結果における考察》

- ・問①は、「大量生産の工夫」と「安全な自動車、人や環境に優しい自動車」について書いた児童が多く、学習した内容が定着していることが分かる。しかし、四つ以上の事柄について書いたA判定の児童はいなかったため、設問に「四つ以上書きなさい」と具体的な数字を示すとよいのではないかと思う。
- ・問①で一つの事柄しか説明できなかった児童が8人いた。設問は、「どのような工夫や努力をしていましたか」という言葉を使ったが、問②のように具体的な視点を示すと答えやすかったのではないかと思う。8人の児童には、定着テスト返却時に「自動車を組み立てるときに工夫していたこと」「どんな自動車をつくろうと努力しているか」などの視点を与え、再度記述させた。どの児童も二つ以上の事柄について説明をすることができた。
- ・問②は、「製造の方法や工夫」「働く人のため」「環境を守るため」「使う人のため」という四つの視点を示したことで、四つ以上の事柄について関連付けて、説明できた児童が8人いた。ほとんどの児童が「安全で、人や環境に優しい自動車づくり」「新しい技術を取り入れた自動車づくり」「リサイクルできる部品を使った自動車づくり」について書いており、学習した内容を生かした論述ができていたと考える。一つの事柄しか説明できなかった二人の児童には、定着テスト返却時に、第12時で記述した「これからの自動車」のワークシートを見て、振り返らせ、再度記述させた。

9 成果と課題

(1) 成果

① 問題解決的な学習を取り入れた学習活動

第1時で、児童の思いや考えから、共通学習問題を設定し、さらに具体的学習問題を自分で選択する活動を取り入れたことによって、主体的に学習を進めることができた。学習問題を解決するために、見学をしたり、資料で調べたり、分かったことを発表したりする活動に意欲をもって取り組んでいた。事後のアンケート調査でも、8割以上の児童が、また問題解決的な学習の方法で社会科の勉強をしたといと答えていた。

② ワークシートによる学習の記録

学習の各段階で児童が考えたこと、疑問に思ったこと、理解したことなどが記録できるようにワークシートを作成した。児童は、これらのシートのポートフォリオを活用して、まとめの段階の論述をした。また、各シートに記述された内容は、児童が何を調べ、何を分かっているのかを知ることができ、その評価を指導に生かすことができた。

③ まとめ段階の論述による評価

単元の最後、「これからの自動車」についての記述（資料11）を見ると、学習したことを通して自分の考えをつくり上げていることがよく分かる。また、「学習のまとめ」の記述には、社会的事象と結び付けて、これからの自動車工業についての考えがまとめられていた。まとめの段階の論述で、思

考・判断・表現について児童の定着度を明確に判断することができた。

(2) 課題

① 学習内容を踏まえた問題の設定

自動車生産について分かったことを発表した段階で、この単元で取り上げたい内容が全て学習できなかった。発表後、教師がその内容を取り上げ、追加で追究活動をしたが、学習問題を設定する段階で、選択肢として取り上げる学習内容を問題に上げ、追究活動に向かわせるようにしたい。

② 話し合い活動の充実

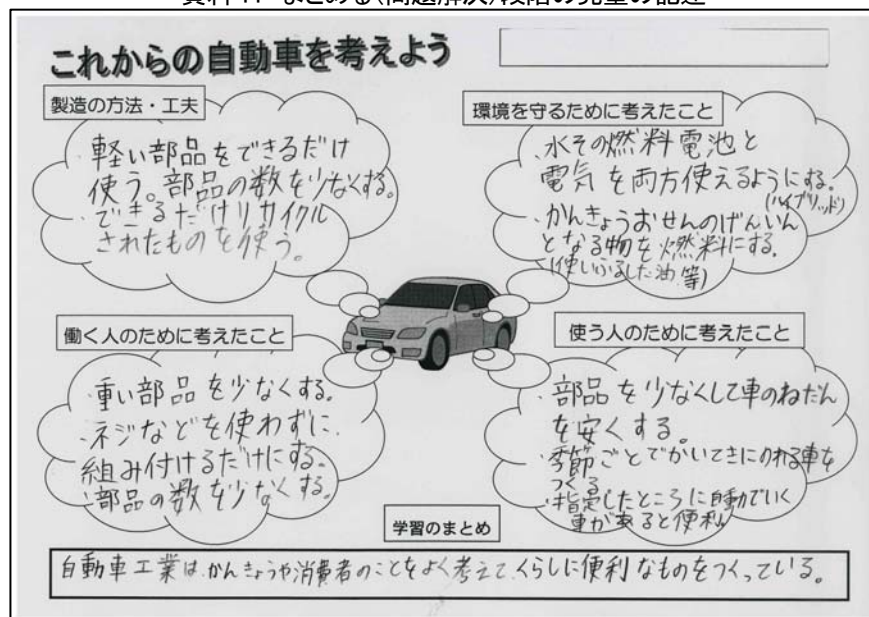
事後のアンケート調査では、「友達の意見や考えを聞いて、自分の考えと比べることができた」「友達の考えと比べて、考え直したり、自分の考えに自信を

もったりできた」と答えた児童は、約6割だったことから、話し合いの深まりに課題があり、話し合いのルールを決めたり、話型を示したりしながら、話し合う場を学習活動に取り入れていきたい。

③ 考えを表現できる力の定着度

学習問題を設定し、自分で調べ、考え、まとめることは、定着テストの結果からも、考えを表現できる力としての定着につながったと思う。しかし、テストの記述から他の児童の発表や話し合いによって出てきたことが、十分に定着していないことが分かった。発表を聞いたり、話し合ったりしたことを、一人一人の児童にどのように取り入れさせていくかについて、発表を記録するワークシートを工夫したり、学習形態をペア・グループ・一斉と変えて話し合わせたりして、学習内容を定着させていきたい。

資料 11 まとめる(問題解決)段階の児童の記述



【検証授業Ⅲ】

尾張旭市立城山小学校

6年

1 単元 明治の国づくりを進めた人々

2 単元について

本学級の児童は、落ち着いた生活ができ、意識調査では、約7割の児童が歴史学習を好きと答えている。その反面、社会科学習では、自分の考えや意見を積極的に発言する児童が限られている。そこで、社会的事象に対して根拠に基づいて自分の考えをもち、その考えを交流する場面として、質問や反対意見の発表なども行う発表会を取り入れ、積極的な意見の交流を図りたい。

本単元では、黒船来航、明治維新、文明開化、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、国会の開設などの歴史的事象について、関わった人物の働きを取り上げ、調べる活動を通して、明治の新しい政府が、富国強兵、殖産興業など欧米諸国に負けない国づくりを目指して近代化を進めたことを理解させたい。また、政府の改革に不満をもつ人々の行動は、武力による反乱から自由民権運動へ移行し、国会開設、大日本帝国憲法の制定をもたらしたことを理解させるとともに、新政府が近代国家の体制を整え、国際社会での地位を向上させていこうとする時代の中で、国民生活の変化と意識の変容についても学ばせたい。

本単元は、変化の激しい時代を扱っているが、幕末と明治維新後、諸外国と日本、政府と自由民権派など対になる資料を比較して提示することより、児童が自ら学習問題を見付け、追究しようとする意欲を高めたい。また、まとめとして、政府派と国民派それぞれの立場に立って明治政府の改革における発表会を行い、学習してきた歴史的事象や人物についての理解を深めたいと考えた。さらに、調べて分かったことや考えたことを自分の言葉で文にしたり、伝え合ったりする活動を行う中で、多面的な見方や考え方を育てていきたい。

3 単元目標と評価規準

(1) 単元目標

- 黒船の来航、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布とそれらに関わる人物の働きや代表的な文化遺産を通して、我が国が欧米の文化を取り入れつつ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、近代化を進めたことを理解させるとともに、それらに関わる人物や働き、代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現させる。

(2) 評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
評価 規 準	①黒船の来航とその後の世の中の変化や明治維新に関わる人物の働きなどに関心をもち、意欲的に調べようとしている。	①明治維新によりおこった文明開化から、明治政府の行ったことを予想し学習問題を考え表現している。 ②欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めた政策の意味またそれに反対する人々の願いについて判断し、適切に表現している。	①黒船来航、明治維新文明開化、自由民権運動、大日本帝国憲法の発布について、文化財、地図や年表その他の資料を活用して調べている。 ②明治政府の政策や政府に反対する人々の行動について必要な情報を集めて読み取り、ワークシートにまとめている。	①黒船来航、明治維新文明開化、大日本帝国憲法の発布における人々の働きについて、資料等を基に理解している。 また、我が国が欧米の文化を取り入れつつ、廃藩置県や四民平等などの諸改革などを行い、近代化を進めたことも理解している。

4 単元計画と評価計画

時	主な学習内容と学習活動	おおむね達成（B）	十分達成（A）
気付く （問題設定） 【二斉】 ①	○ 明治時代になって人々の暮らしや社会がどのように変わったのかを考える。 ○ 寺子屋と小学校の絵を見て気付いたことから、わずか20～30年間に社会に大きな変化があったことを話し合い、学習問題を設定する。① ○ 文明開化について調べる。 ・服装の変化、教育内容の変化 ・江戸時代と明治時代の違い ・郵便、鉄道、新聞、電報などの新しい制度や文化	関①江戸時代と明治時代の違いを見付けそれらの違いに興味をもち、学習問題を設定している。 思①明治維新によりおこった文明開化から、明治政府の行ったことを予想し学習問題を考えて表現している。	・江戸時代と明治時代の違いを見付け急激な変化の理由に興味をもち学習問題を設定している。 ・明治維新によりおこった文明開化から、急激な西洋化が起きた理由を予想し学習問題を考えて表現している。
	明治政府はどんな国づくりを目指したのか。		
調べるⅠ （問題追究） 【個別学習】 【問題グループ】 ② ③	○ 学習問題について調べる。 ②③ A 黒船の来航から倒幕までの様子について調べる。 ・黒船の来航によって開国したこと ・幕府への不満が高まり幕府が倒れたこと ・徳川慶喜が政権を朝廷に返し、明治新政府が誕生したこと	知①黒船来航により我が国が混乱の中で開国し、若い武士たちが中心となって江戸幕府を倒したことを理解している。	・日米修好通商条約が国内生活を混乱させ、江戸幕府より強い政府が必要と考えた若い武士たちが中心となって明治維新を進めたことを理解している。
	B 欧米に学んだ大久保利通らが目指した国づくりについて調べる。 ・地租改正・殖産興業・徴兵令を推進し改革を進めたこと	知①富国強兵に向けた明治の改革が財政安定を目指していたことを理解している。	・富国強兵に向けた明治の改革が諸外国に追いつくために財政安定を第一に目指していたことを理解している。
	C 政府の改革に不満をもつ人々の行動について調べる。 ・武力による反乱から言論による主張へ変わっていったこと ・板垣退助と自由民権運動	知①政府に不満をもつ人々の行動が反乱から言論へと変化していったことや自由民権派が国会の開設を唱えた理由などについて、理解している。	・政府に不満をもつ人々の行動が反乱から言論へと変化していったことや富国強兵によって強い国づくりが進んでいったこと、自由民権派が国会の開設を唱えた理由などについて、理解している。
	D 大日本帝国憲法までの道のりやその特色、議会と選挙制度について調べる。 ・大日本帝国憲法では、主権は天皇にあり、強い権限が与えられたこと ・国会の仕組み（貴族院と衆議院の二院制） ・選挙権を持つ人は、まだ国民の一部だったこと	知①大日本帝国憲法の特色について、天皇に強い権限があることなどの特徴を理解している。	・大日本帝国憲法の特色について、伊藤博文がドイツの憲法を手本に天皇に強い権限をもたせたことなどの特徴や国会の仕組みを理解している。

調べるⅡ (問題追究) 【学び合いグループ】 ④⑤交流【一斉】	○ 調べて分かったことを伝え合う。④⑤ A 黒船の来航から倒幕までの様子	技①黒船来航や明治維新について、資料を活用して調べ、まとめている。	・資料を活用し、条約による生活の混乱、幕府への不満、若い武士による倒幕への動きについてまとめている。
	B 欧米に学んだ大久保利通らが目指した国づくり	技①富国強兵を進めるために国の財政を安定させようとしたことについて、資料を活用してまとめている。	・富国強兵を進めるための地租改正、殖産興業、徴兵令などの改革を取り上げ、資料を活用して相互に関連付けながらまとめている。
	C 政府の改革に不満をもつ人々の行動	技①政府に不満をもつ人々の行動について、資料を活用して調べ、反乱から言論へ変化したことを読み取り、まとめている。	・政府に不満をもつ人々の行動について資料を活用して読み取り、反乱から言論へと変化していったことを、国会開設を求める板垣退助の願いや行動に関連付けてまとめている。
	D 大日本帝国憲法までの道のりやその特色、議会と選挙制度	技①大日本帝国憲法の特色について、資料を活用して調べ、天皇主権や選挙制度を読み取り、まとめている。	・伊藤博文がつくった大日本帝国憲法の特色について、資料を活用して調べ、天皇に強い権限があることや選挙権に制限があることなどの特徴を読み取り、まとめている。
まとめる (問題解決) 【発表グループ】 【一斉】 ⑥⑦	○ 明治政府の改革について政府の立場か民衆の立場を決め、発表会に向けての準備をする。⑥ ・政府の立場と民衆の立場に分かれてワークシートに意見をまとめる。	技②明治政府の政策に対して、それぞれの立場で、国づくりを進めるための行動と不満をもつ人々の行動について、情報を集め、読み取ってワークシートにまとめている。	・明治政府の政策について、それぞれの立場で、国づくりを進めるための行動と不満をもつ人々の行動について、必要な情報を集めて具体的に読み取り、近代化と民衆の生活の隔たりが大きかったことをワークシートにまとめている。
	○ 明治政府の改革について発表会をする。⑦ 本時 ・明治政府の改革について、政府の立場か国民の立場に分かれて発表する。 ・明治政府がどんな国づくりを目指していたのかまとめる。	思②欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めたいいくつかの政策について、関連付けながら自分の考えを表現している。	・欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めたいいくつかの政策について、関連付けをしながら、政府の立場と国民の立場から多角的にとらえて自分の考えを表現している。

5 本時の指導

(1) 目標

- ① 明治時代の改革とその影響について自分の考えを述べたり反対意見に反論したりして理解を深めようとしている。
(関心・意欲・態度)
- ② 欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めた政策の意味やそれに反対する人々の願いについて判断し、根拠を明確にして自分の意見を表現している。
(思考・判断・表現)

(2) 準備

教師 政策カード

児童 ワークシート（発表用） 教科書 ノート 学習問題ワークシート

(3) 指導過程

時間	児童の活動	教師の活動（・教師の支援）
2	1 前時の学習内容を確認する。	
3	2 本時の学習課題を確認する。	
	明治政府の改革についてあなたは、政府派ですか？国民派ですか？	
3	3 発表会を行う。 (1) 発表会の流れを確認する。	・根拠となる資料を明確にし、ワークシートを使って発言することを押さえる。 ・中心となる政策をカードで示し、視覚的にも発表している政策が明確になるようにする。 ・政府派と国民派の意見を分けて板書し、それぞれの意見を分かりやすくする。 ・話型を参考にして、自分の考えを述べるように声を掛ける。 ・発表することだけが目的ではなく、質問や反対意見を述べることで様々な考え方を知ることが大切であると確認する。
25	(2) 発表する。 政府派 ・政府の力で殖産興業を進めたから欧米などに追いつくことができたと思う。 ・国を強くしないと外国に勝てないから徴兵令は必要だと思う。	
	国民派 ・地租改正で税金の負担が増え、徴兵令で軍隊にも入り、貧しい人の負担ばかりが増えた。 ・自由民権運動で政府にしっかり反対したから国会の開設や憲法ができた。	
2	(3) 発表会のまとめをする。	(評価) 明治時代の改革とその影響について自分の考えを述べたり、反対意見に反論したりして理解を深めようとしているか。 (関心・意欲・態度)
10	4 学習の振り返りを書き、発表する。 ・学習から分かったことや考えたことをまとめる。	・感想ではなく、友達の意見も参考にして自分の考えや意見をまとめるように確認する。 ・具体的な政策名を入れて記述するように助言する。 (評価) 欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めた政策の意味、またそれに反対する人々の願いについて、根拠を明確にして自分の意見を表現できたか。発表やワークシートの論述で評価する。 (思考・判断・表現)

(4) 評価

- ① 調べた明治時代の改革とその影響について自分の考えを述べたり、反対意見に反論したりして理解を深めようとしているか、発表から判断する。 (関心・意欲・態度)
- ② 発表会を通してとらえ直した自分の考えとして、欧米に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めた政策の意味、またそれに反対する人々の願いについて、根拠を明確にして論述できたか。発表やワークシートから判断する。 (思考・判断・表現)

6 結果と考察

(1) 気付く(問題設定)段階【一斉学習】

- ①「明治時代になって、子どものくらしの様子がどのように変わったか考えよう」

江戸時代の寺子屋と明治時代の小学校の絵を提示し、比較した。児童は「寺子屋では、先生が教えるというより、みんな勝手に勉強している」「明治の学校は、今の学校とあまり変わらない」「洋風の建物になって、先生も洋服を着ている」など、それぞれの特徴をしっかりととらえることができた。

明治と現代の学校の様子を比較すると、「明治時代から120年も経っているのに先生の髪形も服装もそんなに変わっていない」と、現代と明治の学校が、江戸末期から明治初期の学校への変容ほどではないことにも気が付いた。寺子屋から小学校に変容した年を予想すると、約50年から80年であるとした児童がほとんどであったが、資料のような小学校の実現は、約20年か30年で進んだと伝えられると、「なぜこんなに変わったのか」と児童は驚いた。児童の関心は、江戸時代と明治時代の学校の様子の違いから、学校が変容した理由へと発展していった。そこで、各自がもっと知りたいこと、調べたいことを学習問題として、追究していくことにし、「なぜ先生が洋服を着ているのか知りたい」や「学校以外にも変わったことがあったのか調べてみたい」など明治時代の変化に目を向ける児童も見られた。

そこで、「明治政府はどんな国づくりを目指したのか」という単元を通しての問題として学習を進めていくことを確認した。

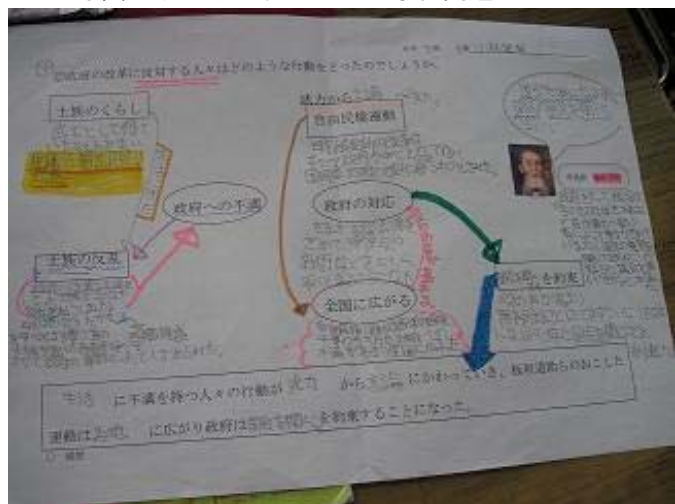
問題解決的な学習は初めて行ったため、児童の疑問や感想を基に教科書を参考にして教師が設定した問題を選択させる方法を採用した。A～Dの4種類のワークシート(資料1)を準備し、4～5人のグループ内で各自が調べたい学習問題を選び、全ての問題が追究できるように話し合って決定した。問題設定については、「写真や資料を見て話し合っていたら、もっと調べてみたいことを見付けた」と感想を書いた児童が多く、約7割の児童は「自分で問題を設定できた」ととらえていた。【思①】

(2) 調べるⅠ(問題追究)段階【個別学習】【問題グループ学習】

- ②③「自分の問題について調べよう」

4種類のワークシートから選択した問題ごとに集まってグループで調べ学習を進めた(資料1)。ここでの学習は、個別学習による調べ学習を行った後、問題別でグループ学習を行った。四つの問題とは、①「明治維新を進めた人は、どのような人々のどのような思いからか」②「欧米に学んだ大久保利通らは、どのような国づくりを目指したのか」③「政府の改革に反対する人々のとった行動はどのようなものだったのか」④「伊藤博文は、どのような思いをもって大日本帝国憲法をつくったのか」である。

写真1 分かりやすくまとめた学習問題ワークシート



学習問題ワークシートには、それぞれの学習でポイントとなる事柄や用語を掲載しておき、学習の

視点を与え、調べ学習をするようにした。

児童は、それぞれ教科書、資料集などを読み込み、図書室、学習室での資料探しを行い、よい資料はみんなで見せ合ったり、教え合ったりしながらワークシートにまとめていった。用語や人物の説明を細かくたくさん書き込む児童が多く、資料を丸写しするような状態が見られた。そのため、大切な事項をタイトルにして、箇条書きや矢印などによって、情報の取捨選択をし、分かりやすくまとめることを目標にした。分かりやすくまとめている児童のワークシートを提示し(写真1)、細かく説明することよりも流れが説明できることや学習問題の解決に結び付くワークシートにするように確認しながら指導をした。

調べ学習が進むと、それぞれのワークシートを読み合ったり、説明する練習をしたりした。児童に学び合いのための準備について尋ねると、「友達に教えなくてはいけないから、責任を感じる」「自分で調べた事だから説明しやすい」と答え、児童の学びが主体的な学びになっていることが感じられた。

資料1 学習問題ワークシート ①明治維新

6年 組 番 _____

◎明治維新を進めたのは、どのような人々のどのような思いだったのでしょうか。

明治維新のきっかけ

勝海舟

木戸孝允
大久保利通
西郷隆盛

条約

新選組

物価上昇

新しい政府

幕府に不満

によって開国し、
を進めるための新しい政府を作る運動が進み、260年続いた
幕府は、

などの若い
たちの活やくにより、

感想

②大久保利通ら

6年 組 番 _____

◎欧米に学んだ大久保利通は、どのような国づくりを目指していったのでしょうか。

廃藩置県

富国強兵

富国

殖産興業

地租改正

強兵

徴兵令

四民平等

津田梅子

市民

政府員 大久保利通

感想

③改革に反対した人々

6年 組 番 _____

◎政府の改革に反対する人々はどのような行動をとったのでしょうか。

士族のくらし

武力から

自由民権運動

政府への不満

政府の対応

士族の反乱

全国に広がる

を約束

に不満を持つ人々の行動が
運動は、
に広がり政府は

から
にかわっていき、板垣退助らのおこした
を約束することになった。

感想

④伊藤博文と憲法

6年 組 番 _____

◎伊藤博文は、どのような思いをもって大日本帝国憲法を作ったのでしょうか。

自由民権運動の高まり

政府

大日本帝国憲法

国会

政党

憲法草案

憲法草案

伊藤博文

市民派

伊藤博文は
の権力が強い
を参考に
をつくったが、市民派のつく
った憲法とくらべると、

感想

(3) 調べるⅡ（問題追究）交流の段階

【学び合いグループ学習】【一斉学習】

④⑤「調べて分かったことや考えたことをグループで伝え合おう」

問題別グループで教え合いながら作成したワークシートを使って、伝え合うことにした。学び合いグループ学習とは、4種類の各シートについて、一人ずつが説明をして交流をする学習である。一人が学び合いグループの中で15分程で説明を行い、その後一斉学習で教師がポイントを押さえるという流れで進めた。

写真2 学び合いグループでの伝え合う様子



グループで伝え合う時間には、
「なぜ国民の生活が苦しくなったのかな」「ここよく分からないからもう一度説明してほしい」など、仲間に率直な質問をする様子が見られた。学習の振り返りの中でも、「先生には聞きにくいことでも子ども同士だと聞きやすい」という感想を書いている児童が多く見られ、自分たちで学び合う授業になっていたことが分かった。しかし、どのグループも一問題を一人が担当しているので、『問題追究Ⅰ』がしっかりとできていないと、15分の伝え合いでは理解ができず、教師によるまとめの授業に頼ることになり、5分間での一斉学習では理解できずに終わってしまうこともあった。そこで、机間指導で理解が進んでいないグループを見付けると積極的に説明に入ったが、グループによっての理解度の差が出てしまい、課題として残った。

(4) まとめる（問題解決）段階 【発表グループ学習】【一斉学習】

⑥⑦「明治政府の改革について発表会をしよう」

明治政府の改革について、政府派（賛成派）と国民派（反対派）に分かれて発表会を行うことにした。政府派を希望する児童が6名と極端に少なかったため、国民派から10名が変更をして準備に取り掛かった。

初めに、一斉授業で政策を絞り合った。国民派は、「大日本帝国憲法」「身分制度改革」「徴兵令」「地租改正」の政策を考え、政府派はさらに「廃藩置県」を追加して五つの政策を発表することになった。

次に、政策ごとに発表グループをつくり、発表会用ワークシートに沿って発表会の準備を進めた。最初の主張では、自分たちの思いをなるべく簡単に表現するように指導した。予想される相手の主張、それに対する質問・反論では、相手が反論しそうなことを予想しながら、児童同士で根拠を基に論述をするための話し合いをした。

政府派には、国民派から変更した児童がいることもあり、反論の予想までしっかりとできていた。国民派は、感情論で主張をするだろうと予想をし、「地租改正がなかったら、政治が天候や農産物のできによって左右されてしまったのではないか」「自分も今、消費税を払っているのに、税金を払いたくないから政府に反対

資料2 発表会ワークシート

社会科発表会ワークシート		
6年（ ）組（ ）番 名前（ ）		
1 テーマ	2 あなたの立場	
3 中心となる論点		資料名・ページなど
4 はじめの主張		
5 予想される相手の主張	それに対する質問・反論	
最終弁論用メモ		
7 発表会を終えた後の自分の考えや意見		
発表会を終えて、私は（ ）について（ ）です。理由は、		

写真3 発表会の様子



するなんて、国民派はわがままなのではないか」「徴兵令がなくて、軍隊が弱かったら、西南戦争が長く続いたかもしれない。そうすると国民だって、たくさん戦争に巻き込まれたはずだ」など明治政府の改革の意味をより深く追究することができた。元々国民派だった児童も話合いの深まりとともに、自分の考えも政府派に変わっていく様子が見られた。発表の中では、政府派の立場に立ち、根拠を基に、自分の考えを述べる様子が見られた。

一方、国民派は、感情論からなかなか抜け出せず、「政府は国民の意見を聞かないなんてずるい」「軍隊に入らなければならないなんておかしい」など、国民の思いを主張することが多く、政府の改革について事実と事実を結び付けて論ずることができず、根拠を基にした論述には至らなかった。

発表会では、教師が司会者となり、黒板に政策を一つずつ出し進めていった。児童は準備したワークシートを基に発表会に挑んだが、政策の数が多かったことにより、自分が考えた政策以外では質問や反対意見などの発言が少なかった。

発表会后、自分の意見を再構成して論述する場面では、児童がそれぞれ考えを一生懸命に取り組む様子が見られた。ここでは、具体的な政策を基に理由を述べることや、両方の意見を取り入れた上で自分の意見を述べることなど、単元のまとめとして、学習問題「明治政府はどんな国づくりを目指したのか」に対しての答えが出せるように児童に観点を示した。

ワークシートの最後の自分の意見の所には、政府派、国民派両方の意見を取り上げながら、「明治政府が強い国づくりをめざした」という問題の答えをしっかりと表現している児童が見られた。

国民派の児童は、発表で出てきた国民の思いを基に、「国民の意見を聞いて国をつくらなければ国民も納得しない」（資料3）など民主主義という部分で未熟であった明治政府の体制をしっかりとらえることができた。

政府派の児童は「昔から積み上げてきたことを全部無駄にしないために日本を強い国にして外国から守った」（資料4）など国民には伝わりにくかった政府派の思いや「富国強兵というスローガンがあったからこそ、今の日本がある。」（資料4）など明治政府の改革が今現在の日本の発展に関係していること等にもふれて表現することができた。【思②】

資料3 国民派の意見

もし自分が徴兵令で兵士になれと言われてもなりたくありません。強い国づくりをめざしても国民の意見を聞いて国を作らなければ国民も納得しないと思います。政府はおこなったことは国民を苦しめたと思います。たかひ反文です。

資料4 政府派の意見

大日本帝国憲法は国民の意見は聞かずに伊藤博文は昔からつみ上げてきたことを全部無駄にしないために日本を強い国にして外国から守つたで、こういう憲法がないとすべて無駄になるから大日本帝国憲法をつくつたと思うからです。

富国強兵の徴兵令で市民が20才から3年間自由からはなれたのはたしかに国民は政府にたいしてなてたと思ふるかも知れないですが、もし外国からせめてきてもらひたいこうでござるしも勝て、その分お金も領土もふえるのでぼくはさくせいです。

地租改正についていろいろ考へて、国民にも大変な思ひがあつたと思ひます。ですが、廃藩置県などの制度をきめて富国強兵というスローガンをめざした政府があつたからこそ、今の日本があると思ひます。なので私は政府派です。

7 単元中における「思考・判断・表現」の評価の判定基準及び評価

(N=38)

時	【思考・判断・表現】の判定基準と評価事例	判定人数		
		A	B	C
①	明治時代になって、人々の暮らしや社会がどのように変わったのかを考え、学習問題を選択して書く。 《B判定》 ・文明開化によって起きた変化から、明治政府の行ったことを予想している。 《A判定》 ・文明開化によって起きた変化を西洋化と考え、諸外国と日本の関係に着目して明治政府の行ったことを予想している。 (例) B「20 年で鉄道ができるなんてすごいと思う。明治政府は新しい技術をどのように取り入れたのか」 A「文明開化で西洋風の物がたくさん増えたのは、きっと鎖国をやめて外国から色々なことを教えてもらうことにしたのだと思う。他には、外国のように力をもつために明治政府はどんなことをしたのか」	4	34	0
⑦	明治政府の改革について発表会を行う。 《B判定》 ・自分の意見に根拠を明らかにして述べている。 ・具体的な政策を示し政府の改革をとらえている。 《A判定》 ・政府派、国民派両方の意見を取り込んでいる。 ・具体的な政策も示し、政府の改革を多角的にとらえている。 ・明治政府が強い政府を目指していたことが明確に書かれている。 (例) B「明治政府は、地租改正や徴兵令で人々の暮らしをよけいに悪くしたので、明治政府の政策は、よくなかった」 A「地租改正について考えると税金が増えて、国民にも大変な思いがあったと思います。しかし富国強兵というスローガンを決めて目指した政府があったからこそ、今の日本があると思います。だから、明治政府の改革はよかったです」	9	21	8

※単元の評価計画における「思考・判断・表現」の評価について

☆指導に生かす評価・・・単元の途中である第1時の「思考・判断・表現」の評価は、その結果から次の学習につなげる助言を行ったり、達成できなかった子への支援策をとったりするための指導に生かした。

★記録に残す評価・・・第7時の「思考・判断・表現」の評価は、結果を記録に残した。

C判定の8名には、個別指導を行い、歴史的事象の確認を行った。複雑な幕末から明治初期の歴史的認識の再確認のため、NHKデジタル教材の小学校社会（小6）日本の歴史「諸改革と近代化」を視聴させながら指導した。

8 単元の定着度の評価

単元の終了の1か月後に、「明治政府が近代化を進めたわけ」について、2問の定着テストを行った。予告なしで、教科書やノート、ワークシートを参考にさせず、テストの時間は20分間とした。また、文章表現による記述式のテストで、使用させたい事柄・用語の提示も行わず実施した。

設問は、単元で学習した内容の中で、明治政府の国づくりについて、政府側の立場と国民側の立場からそれぞれの事柄と関連付けたり、総合させたりしながら記述させるものである。このテストは、児童が分かったことや考えたことを事柄と関連、総合させながら表現できるかを測定する方法である。

これらの設問による定着度の評価は、人物と改革を「関連付け」した記述、富国強兵と改革を「関連付け」した記述がそれぞれいくつ書けているかによって判定したので、説明が複文になっていても、一文に分けてチェックし、カウントした。

設問① 明治政府の行った富国強兵について、いろいろな改革と関連付けて説明しなさい。

★ 使用させたい事柄・用語

廃藩置県、四民平等、地租改正、徴兵令、殖産興業、富国強兵

★ 解答例

- (1) 廃藩置県を行い、政府の政治の方針が全国に広まるように、県や府を置き、政府の任命した役人に治めさせた。
- (2) 財政の確立のために、地租改正して年貢から現金で税を徴収する体制を確立した。
- (3) 外国が攻めてこないように強い軍隊をもつために徴兵令を出して 20 歳の男子を 3 年間軍隊につかせた。
- (4) 四民平等として、士族以外（平民）から徴兵し、近代的な軍隊づくりにまい進した。
- (5) 外国人の教師や技術者を多数、日本に招いて教育や技術、軍隊の訓練の習得に努力し、西洋に追いつくようにした。
- (6) 殖産興業として、近代工業を始めるために外国から機械を買い、技師を招き、官営工場を各地に設立し、繊維工業を中心とした軽工業の発展に努め、安い製品を輸出することができるようにした。

★ 使用したルーブリックと判定結果

判定	設問①における思考・判断・表現の段階	判定人数
A	3 点以上の事柄について、関連付けて説明できる。	22
B	2 点の事柄について関連付けて説明できる。	7
C	1 点の事柄を説明できる、又は説明できない。	9

設問② 政府に不満をもつ人のとった行動とそれに対する政府の対策について人物と関連付けて説明しなさい。

★ 使用させたい事柄・用語

西郷隆盛と西南戦争、板垣退助と自由民権運動、伊藤博文と大日本帝国憲法、ドイツの憲法と天皇主権、国会開設と選挙

★ 解答例

- (1) 武士の反乱の最後は、西郷隆盛の西南戦争であり、政府に武力では対抗できないことがわかり、その後、板垣退助らは言論で政府を批判するようになった。
- (2) 伊藤博文は天皇を中心とした中央集権国家を成立させるために、ドイツの憲法を見本にして大日本帝国憲法をつくった。
- (3) 自由民権運動の拡大を恐れた政府は、国会の開設を約束し、その準備に伊藤博文ら天皇主権の憲法をつくらせ、発布した。
- (4) 政府は板垣退助などの自由民権派に憲法草案をつくらせたが、まったく採用しなかった。

★ 使用したルーブリックと判定結果

判定	設問②における思考・判断・表現の段階	判定人数
A	2点以上の事柄について、人物と関連付けて説明できる。	19
B	1点の事柄について、人物と関連付けて説明できる。	7
C	人物と関連付けて説明できない。	12

《総括評価の結果における考察》

- ・問①②ともにA判定の児童が約半数いたことから、本学習における歴史的事象の理解の深まりとともに、事象を関連付ける表現もできていることが分かる。
- ・一方、設問①②でC判定の児童はそれぞれ9名、12名おり、論述の基となる知識の定着が不十分であったと考えられる。文章表現による論述の評価が二極化しているのは、問題解決的な学習において、いろいろな形態のグループ学習を行い、基礎的、基本的な事象をきちんと理解し、自分の言葉でまとめたり、説明したりすることが十分できたか否かによるものが大きいと考えられる。授業の発表会後のまとめでも同様な結果が得られており、学習した用語や事柄を十分に身に付けた児童は、歴史的な事象と人物の関連付けや事象と事象の関連付けを説明できたと言える。
- ・自分の調べた歴史的な事象は、グループ内で説明したこともあり、定着も十分であった。しかし、友達から聞き取って学ぶその他の事象については、確実な定着とは言えない。交流学习をした後で、分かったことを短い文で書くことができるワークシートを工夫し、日頃から分かったことや考えをまとめさせる必要がある。
- ・文章表現による説明に対して苦手意識をもつ児童が目立った。「つまり、・・・は、・・・ということである」「だから、・・・は、・・・のである」などという表現の仕方を示し、学ばせたい。

9 成果と課題

(1) 成果

① 主体的な学習への態度の育成と知識の習得

問題解決的な学習について、8割以上の児童が「楽しい」と答えた。児童は、学習問題を設定し、主体的に追究し、問題解決をしようとする姿が多く見られた。また、主体的な取組により、基礎的な知識を身に付けることにもつながった。

② 学習内容をまとめ、表現する力の向上

他の児童に説明したり、伝えたりすることを目的にワークシートにまとめる活動は、必然的に相手意識をもって考えたり、工夫したりして調べたことを分かりやすくまとめる力が身に付いてきた。

③ 学習形態の工夫による主体的な学び

「問題」→「学び合い」→「発表」というグループ学習の形態をとり、いろいろな友達との交流により、学習に対して真剣に取り組む姿勢を必然的に与え、主体的な学びとなった。

④ 意見交流後による考えの再構成

グループ学習や全体での発表会の中で、いろいろな考えや意見を聞き、自分の考えをとらえ直して再構成することができた。

(2) 課題

① グループ学習への配慮

「社会科学習が楽しくない」（単元終了後の調査で2割の児童）という学習に対する否定的な意識をもたせないようにするために、その原因となったグループ学習における一人調べのできない児童に対する個別の支援をしっかりと行っていく必要がある。

② 活発な意見交換のための工夫

多くの児童は、自分の考えを根拠に基づいて発表する準備を行うことができた。しかし、論点が明確でなかったため、活発な意見交換には至らなかった。活発な意見交換を目指し、根拠を基に自分の考えが論述できる適切な論題の設定を再考したい。また、意見交換のための話型の提示も考えたい。

③ 二極化した「思考・判断・表現」の評価

文章表現によって事象を説明する学習を初めて行ったことにもよるが、観点「思考・判断・表現」の評価は、A判定とC判定に二極化した状態であり、C判定の児童がやや多いことが問題である。単元の学習中での指導の在り方を再検討する必要がある。基礎的・基本的な学習内容の理解を十分させる学習と言語による表現活動の充実を考えたい。

④ まとめ（問題解決）のための論述を促すワークシートの工夫と話型

学び合い学習がうまく機能するためには、聞き手の学習方法にも工夫をする必要がある。聞き取って新しく分かったことを自分の言葉で短く書くことができる学びの確認のためのワークシートを工夫したい。それが、まとめの段階における論述を方向付けるものになっていくと考える。

また、考え方や表現の仕方を指導する必要がある。考えたことを表現するための話型を提示して、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

9 結果と考察

(1) 問題解決的な学習の実践による効果

ア 4段階の学習過程の設定と思考活動・表現活動の位置付け

① 気付く（問題設定）段階

子どもたちが、社会的事象について「なぜ」「どのように」「何のために」などという疑問や問題に気付くことができるような導入を考えた。そして、子どもの既存の知識や体験とギャップのあるような資料を提示し、主体的な思考活動に向かうようにした。

3年生では、買い物調べの結果をまとめたグラフから「なぜ」を導き出させた。「近いBの店よりもなぜAの店にたくさんのお客が来るのか」という子どもたちの疑問を学習問題に設定した。学習問題に対して「たくさんの品物があるから」「安いから」などの予想が出て、追究への意欲が見られた。

5年生では、今と昔の自動車を比較した写真、最高速度や生産台数の変化のグラフから子どもたちは、自動車生産の進歩を感じ取り、「どのように自動車がつくられているのだろう」という共通の学習問題を設定した。さらに、教師が与えた三つの視点「製造」「働く人」「新しい車」について、話し合っ具体的学習問題を設定し、その中から個々で調べたい問題を決めた。

6年生では、江戸時代の寺子屋と明治時代の学校の様子を絵図で比較しながら、30年で大きな変容があったことを知らせ、30年の間に「明治政府はどんな国づくりを目指したのか」という学習問題を設定した。さらに、教師が与えた四つの具体的な問題の中から一問題を個々が選択し、設定した。

事象への気付きを促す資料の提示は、3・5年生では、子どもの追究意欲を喚起し、各自の学習問題につながったことが、図13の事後の満足度からも分かる。「自分たちで知りたいことを調べることができるから勉強が楽しい」という肯定的な意見も聞かれた。

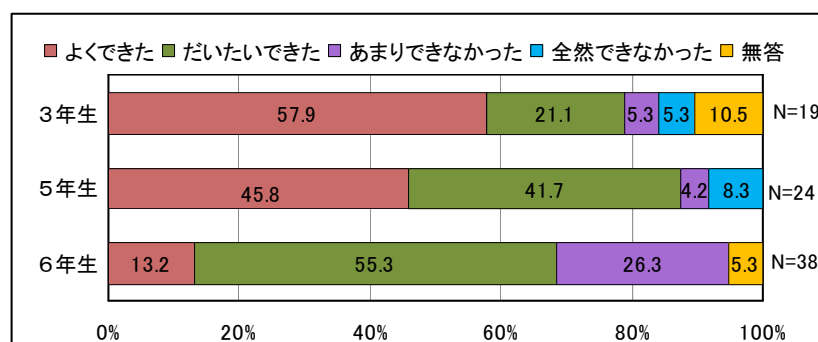
しかし、6年生では、学習問題の設定について「あまりできなかった」と回答する子どもも多い。これは、江戸末期から明治初期にかけて急激に変化する生活、文化、政治などの様々な分野において資料

を提示することによって解消されるのではないかと考える。歴史学習であるので、単元が見通せるような資料や具体的なイメージを広げるような資料の提示により、学習していく明治時代の概要をつかみ、「なぜこのような変容が起こったのか」を知りたい、調べたいと願いをもつであらうと考える。

② 調べるⅠ（問題追究）段階

3年生は、問題を追究するために、計画、見学、まとめ、発表について一斉学習を中心に行った。1回目の店の見学は、教師が思考を促す二つの視点「店の様子」「働く人の様子」を示して体験的な学習を通して解決していった。

図13 事後の満足度「学習問題を設定できたか」



5年生は、自分で設定した具体的問題について、工場の見学、教科書や資料集、自動車会社のガイドブックで調べて付箋紙に短い文で書き表した。

6年生は、個別学習で教科書や資料集、インターネット、図書資料などで情報収集を行い、取捨選択して整理をしたり、矢印を使ったりしてまとめた。

③ 調べるⅡ（問題追究）段階（交流）

この段階では、主に調べたことを比較したり、分類したり、関連付けたりしてまとめ、交流活動を行った。

3年生では、与えられた視点「店の工夫」に沿って2回目の見学を行って、調べたことを分類しながらまとめて全員で発表し合った。

5年生では、各自が調べて分かったことを書いた付箋紙をグループ内で比較、分類、関連付ける思考活動を行った。また、この活動では、短い言葉に概念化して表題を付ける表現活動も取り入れた。友達の調べた内容を比較、分類、関連付けを行うことは、思考を操作しながら、視覚的にも事象についての理解につながった。そして、全体交流では、表題を基に伝え合い、新しく知ったことや疑問を次の学習に発展させた。

6年生では、個々で調べた内容をグループ内の友達に分かりやすく説明する表現活動を行った。この活動は、話し手が調べた内容をきちんと理解していないと聞き手に伝わらないので、話し手にとって十分な理解力と表現力が要求された。また、聞き手にとっても、聞き取ってメモする力や聞き返したり、質問したりするコミュニケーション力が必要となった。さらに、「政府」と「国民」という双方向の立場から事象について、根拠を基に考えを発表し合った。

事後の意識調査から、調べるⅠ・Ⅱ（問題追究）段階の学習の満足度を見ると、高学年では、調査やまとめの思考活動がしっかりできると言える（図14）。また、調査やまとめの思考活動がしっかりできていれば、考えを交流する表現活動も満足のものになっていることが分かる（図15）。

3年生では、調べ方のスキルを習得させる必要があることが分かる。細かく視点を与えて調査やまとめをすることが大切である。学習に使用するワークシートも観察や調査の項目を学習の視点として詳細に示すことで思考活動を支援することができると考える。したがって、例えば、見学ワークシートでは、図16のようなヒントの多いシートに変更すると効果的である。

また、図15の表現活動では、否定的な回答もやや多

図14 事後の思考活動の満足度「調べること・まとめることができたか」

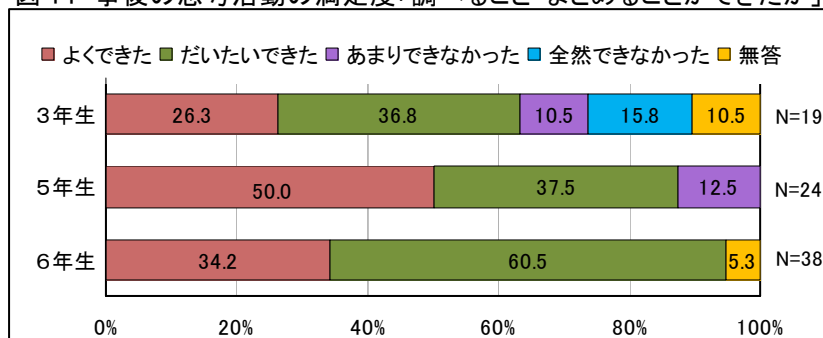
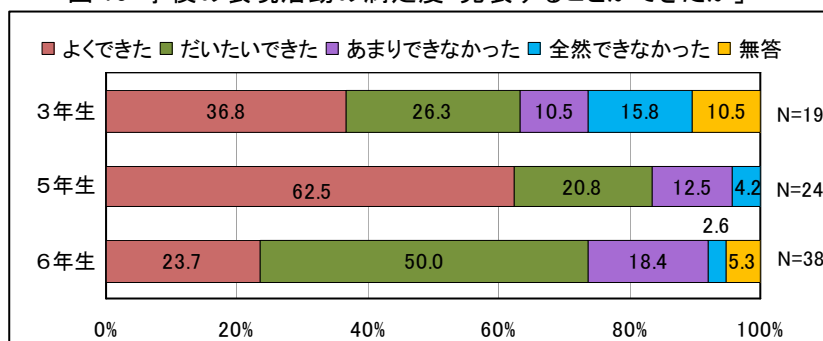


図15 事後の表現活動の満足度「発表することができたか」



く見られる。調べたことやまとめたことをうまく発表するために、話し合いのスキルやコミュニケーションのスキルを習得させることも必要である。学び合いのための話型の提示などにより、考え方や表現の指導をさらに工夫したい。

図 16 ヒントの多いワークシート(3年の実践で使用したシートの改良版)

Aスーパー 見学カード 見学の2 お店のくふうをみつけよう！		3年 組 名前
見学の計画を立てよう！ ～何をみてみようかな？～ ① ② ③ はたらく人の様子 【売り場】 【レジの係】 【その他】(放送する人・ちゅう車場の係)	店の様子 【ならべ方】 【ねふだ】 【明るさ】 【カート・かご】 【リサイクルボックス】 【その他】	

④ まとめる（問題解決）段階

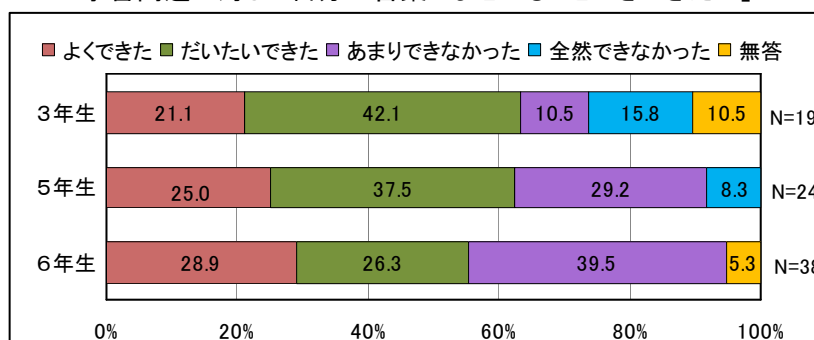
学習問題に答える形で社会的事象に対する概念化をするために、今までの学習の中での自分の考えを再構成させ、文章表現をしてまとめるという表現活動を行った。「つまり（だから）、……は、……である」という短い文章に概念化をしたり、自分の考えを再構成させてまとめ直したりすることを狙った表現活動である。

3年生では、単元を通して学習した「なぜAの店にたくさんのお客が来るのか」に対し、自分の言葉でまとめ、発表し合って確認をした。

5年生では、単元を通して学習した「自動車はどのようにつくられるのか」に対し、学習したことを基にこれからの自動車について、自分の言葉でまとめ、最後に生活との関わりにも触れて論述した。

6年生では、単元を通して学習した「明治政府はどんな国づくりを目指したの

図 17 事後の問題解決に対する満足度
「学習問題に対して自分の言葉でまとめることができたか」



か」に対し、自分の考えを政府の立場か国民の立場で発表し、最後に文章表現を行った。

図 17 は、まとめの段階において、学習問題に対して自分の言葉でまとめ直すことができたかどうかについての子どもの満足度である。満足度はやや低く、学習問題に対して考えを再構成させた文章表現をうまくできなかったと感じている子どもがどの学年も 4 割程度いる。特に、学年が上がるにつれて「あまりできなかった」と評価する子どもが増えているのは、学習内容の抽象度が増し、子どもが思考を言語化することに自信をもてないことが原因であると考えられる。

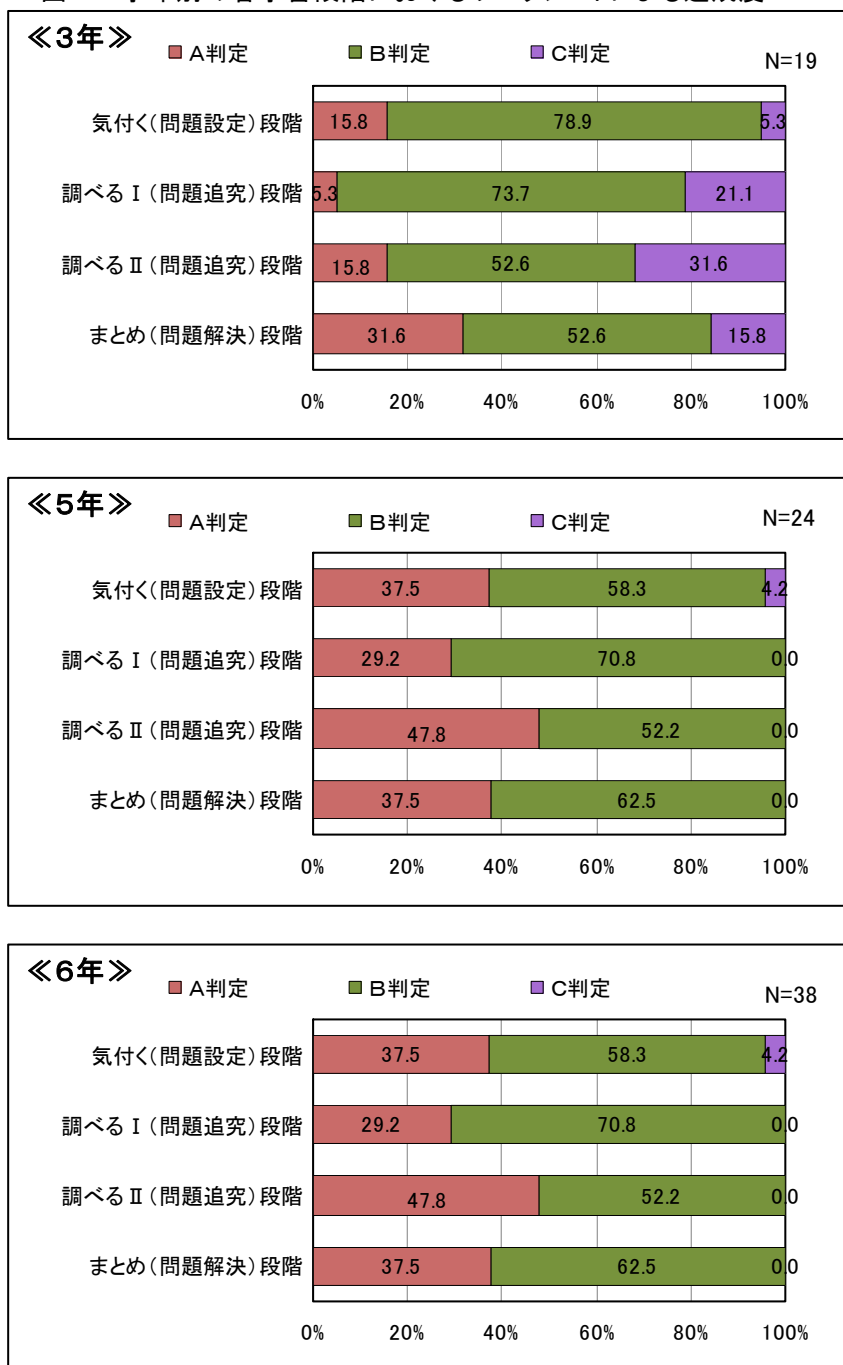
一方、各学習段階のワークシートの記述内容について、各学年の実践における「単元計画と評価計画」に合わせて評価をし、達成度を表したものが、図 18 である。

段階ごとの達成度を見ると、調べる（問題追究）段階が A 判定（十分達成）又は B 判定（おおむね達成）していれば、まとめ（問題解決）の段階における観点別評価「思考・判断・表現」も、ほぼ B 判定（おおむね達成）以上であり、学習目標を達成している。

したがって、調べる（問題追究）段階が充実できているかどうかは、まとめ（問題解決）の段階での学習問題に対する答えを概念化してまとめることに大きく影響することが分かる。

まとめ（問題解決）の段階における図 18 の達成度と図 17 の満足度を比較すると、子どもの満足度がやや低いのは、子どもは言語による表現への自信のなさや調べる（問題追究）段階における知識の習得不足などの不安を感じていることが考えられる。単元で押さえておきたい基礎・基本を明確に

図 18 学年別の各学習段階におけるワークシートによる達成度



して実践に臨み、子どもが確実にその基礎・基本を身に付けられるようにしていく必要がある。

イ 学習形態の工夫

図 19 問題解決的な学習における学習形態の基本例

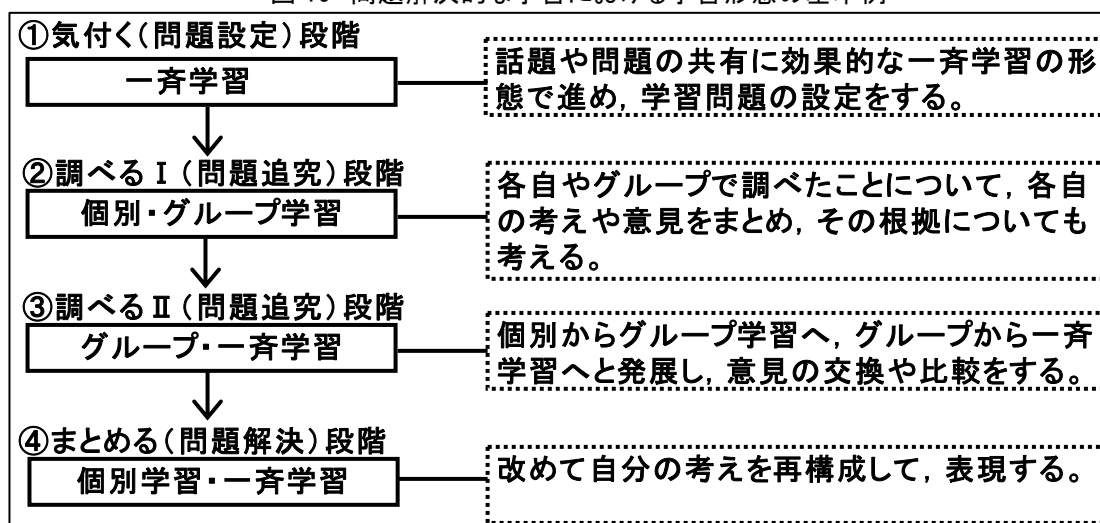


図 20 各学年が取り入れた単元における学習形態

学年	単元における学習形態
3年生	一斉(問題設定)→個別(調査)→一斉(交流)→個別(まとめ)
5年生	一斉(問題設定)→個別(調査)→グループ(交流)→一斉(交流)→個別(まとめ)
6年生	一斉(問題設定)→個別(調査)→グループ(交流)→別グループ(交流)→一斉(交流)→個別(まとめ)

単元の学習において、学習問題の設定から解決までの学習形態を、図 19 を基本形として図 20 のように、一斉学習、個別学習、グループ学習を組み合わせた学習を進めてきた。問題追究の中で調べたことから自分の考えをもち、グループで話し合って友達の考えから学び、よりよい考えを見いだすための集団思考を試みた。

3 年生では、一斉で買い物調べから学習問題「なぜスーパーマーケットには、たくさんのお客が来るのか」を設定した。この問題に対して、みんなで予想を立て、1 回目「店の様子」の見学、2 回目「店の工夫」の見学を通して、各自で分かったことをまとめ、一斉学習による交流で、店のたくさんの工夫やそのわけを考えた。そして、最後に、学習問題の答えとして、児童 A は、「スーパーマーケットのお客さんがたくさん来るのは、お客さんのための工夫がたくさんあるから。スーパーマーケットは、暮らしになくてはならないものだと思った」とまとめた。

5 年生では、一斉で共通学習問題「自動車はどのようにつくられるのか」を設定した。この問題に対して、各自で予想を立て、さらに三つの視点「製造」「働く人」「新しい車」から具体的学習問題を設定した。児童 B は、「製造」部品の数、「働く人」働く人の年齢層と人数、「新しい車」どんな自動車をつくらうとしているのかを見学、インターネット、図書資料などで調べ、分かったことを共通点と相違点を明確にしながらグループで交流をした。その後、全体でも交流して疑問はさらに調べ、学習してきたことを基に、環境を考えた燃料や部品を少なくして安価にするこれからの自動車を考えた。そして、最後に、共通

問題の答えとして、「自動車工業は、環境や消費者のことをよく考えて、暮らしに便利なものをつくっている」と概念化してまとめた。

6年生では、一斉で学習問題「明治政府はどのような国づくりを目指したか」を設定した。そして、教師が示した具体的問題「明治維新を進めた人の思い」「大久保利通らの目指した国づくり」「政府の改革に反対する人々」「大日本帝国憲法」から学び合いのグループ内で各自が選択し、問題別グループで集まって調べた。調べたことを元の学び合いグループに戻って伝え合った。その後、全体で明治政府の改革を確認した上で、政府派と国民派に分かれて改めて発表会をするためのグループ学習を行った。一斉の発表会で自分の考えを述べ合った後、まとめの段階で、自分の考えを再構成させ、児童Cは、「地租改正について考えると税金が増えて、国民にも大変な思いがあったと思います。しかし富国強兵というスローガンを決めて目指した政府があったからこそ、今の日本があると思います。だから、明治政府の改革はよかったと思います」と論述した。

このように、調べたことを基にした自分の考えや意見について、学年の発達段階に応じた他との交流により、各自の考えを再構成させる表現活動に向かわせることができた。

(2) 観点別評価「思考・判断・表現」におけるパフォーマンス評価

ア まとめる（問題解決）段階における単元の評価

まとめる段階では、学習問題に対して単元の中で学んだことから考えをもつ思考活動とそれらについての発表や話し合いによる表現活動によって、とらえ直した自分の考えを概念化する形で文章表現をさせた。ここでの文章表現は、単元における観点別評価「思考・判断・表現」として記録に残すことにした。そのため、判定基準とするルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を行った。

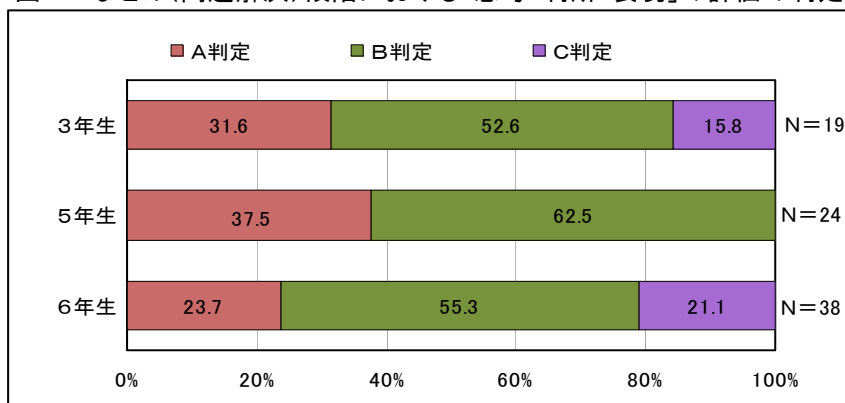
3年生では、「どうしてたくさんのお客がスーパーマーケットに来るのか」について、見学し、発表し合ったことから、自分の考えを文章表現した。

5年生では、「自動車はどのようにつくられているのか」について、調べた「製造」「働く人」「新しい車」を基に、これからの自動車を考え、自分たちの生活とどのように結び付いているのかを論述した。

6年生では、「明治政府はどんな国づくりを目指したのか」について、調べた内容を基に、政府と国民の立場で発表し合った上で、明治政府の政策に対する自分の考えを再構成させて論述した。

その結果は、図 21 の通りである。観点別評価「思考・判断・表現」は、3年生と6年生の80%がB判定（おおむね達成）以上、5年生においては、全員がB判定以上であった。

図 21 まとめ(問題解決)段階における「思考・判断・表現」の評価の判定



イ 単元の定着度の評価

各学年とも、学習終了後1～2か月後に総括的評価として、観点別評価「思考・判断・表現」を見取る定着テストを実施した。学習した事柄や用語を使って表現させるためのパフォーマンス課題を2問作成し、論述させた。予告なしのテスト形式で時間は20分間とした。使用させたい事柄や用語を提示せずに実施した。また、簡単に評価できるように事柄や用語の活用、関連付けた表現の数量で判定できるループリックを作成してパフォーマンス評価を行った。

その結果は、図22の通りである。

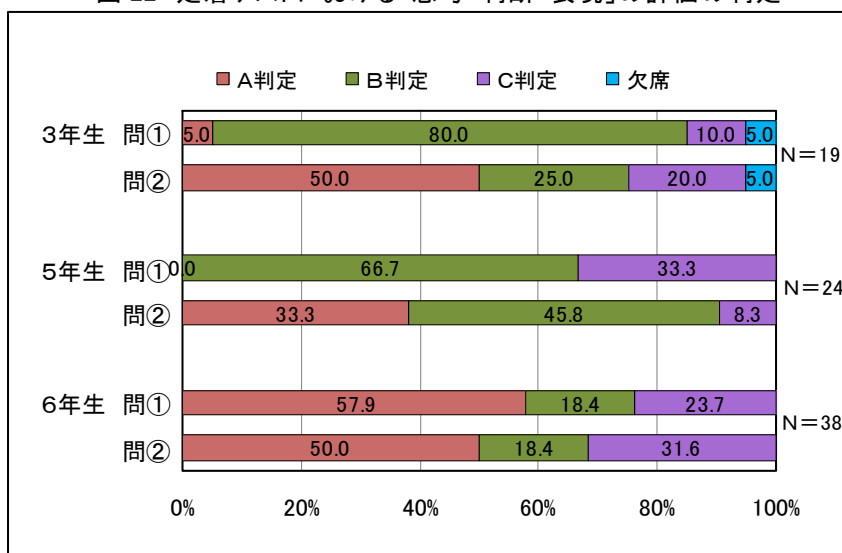
この結果から、観点別評価「思考・判断・表現」は、単元におけるまとめの段階での論述（単元の

評価）と学習終了後の予告なしの定着テストでは、3年生と6年生がほぼ同じ結果を得た。つまり、問題解決的な学習では、学習終了後しばらく期間が空いても、単元の学習で習得した事柄や用語を使い、それらを文章で関連付けたり、説明したりできる子どもが8割いる。それは、子どもが主体的に学習に臨んで得た思考力・判断力・表現力であるからだと考えられる。

このことから、単元終了後の1～2か月後の評価として、パフォーマンス評価法は、観点「思考・判断・表現」の評価として妥当性、信頼性の高い評価と言える。

しかし、5年生では、まとめ（問題解決）の段階の評価（P17の図21）の0%であったC判定が、定着テストの問①では約33%となり、設問やループリックの修正が必要であることが分かった。

図22 定着テストにおける「思考・判断・表現」の評価の判定



10 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

子どもは、問題解決的な学習に意欲的に取り組み、表面的な知識の習得ではなく、知識を比較、関連付け、総合して思考し、社会的概念を自分の言葉で表現することができた。

(2) 課題

思考力・判断力・表現力がまだ十分身に付いていない子どもの現状から、授業改善の工夫を更に行う必要がある。

以下の改善点を今後の課題として、次年度の研究を進めていきたい。

① 単元の学習に意欲がもてる学習問題の設定

既習の知識や体験とギャップのある導入の工夫をする必要がある。“なぜだろう”“調べたい”という意欲を喚起し、主体的に学習に向かわせたい。また、学習が見通せる問題の選択、把握など学年に合う設定の仕方を検討する。

② ワークシートの工夫

調べ方やまとめ方の学び方を指導するため、教師によるヒントの多いワークシートの作成をする必要がある。また、学び合い学習をうまく機能させるため、交流して新しく分かったことや考えを自分の言葉で記入できる学びの確認のためのワークシートの工夫をする必要がある。

③ ペアやグループによる学び合い学習と全体での交流

小集団でのコミュニケーションを図りながら、自分にはなかった考えを取り込み、考えを再構成させる表現力の育成を無理なく行うためのグルーピングや小集団での効果的な学習場面の設定を検討する。例えば、ペア学習においては、共通点を見だし、それらを関連付けさせるようにする。

全体では、問題追究で見いだした考えの共通点や相違点を比較、関連付け、総合して交流ができるようにさせる必要がある。

④ パフォーマンス評価についての検討

設問とループリックを見直し、修正する必要がある。また、記述しやすい解答用紙の作成もしたい。さらに、評価の判定基準を子どもに事前に示す方法を検討する。

⑤ 「単元で押さえておきたい基礎・基本」の明確化

単元の計画の段階には、調べること、理解させたい内容、育てたい態度、高めたい能力などを明確にし、指導していく必要がある。

⑥ 学年の発達段階を考慮した目標の設定

問題解決的な学習における4段階の各学習過程について、学年の発達段階に応じた目標を明確にして実践を行う。6年の歴史学習は、社会的事象の抽象度が増すため、5年生までの思考力や表現力よりも高度な力が要求されていることも考慮したい。

【参考文献】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年3月
- ・国立教育政策研究所『特定の課題に関する調査(社会)結果のポイント』2008.6
- ・ベネッセ教育研究開発センター『第4回学習基本調査国内調査・速報版』2006.12
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社 2008.8
- ・文部科学省委託調査『学習指導と学習評価に対する意識調査』平成21年8月
- ・北俊夫『平成20年改訂小学校教育課程講座社会』ぎょうせい 2009.2
- ・波多野完治『ピアジェの発達心理学』国土社 1974.6
- ・国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』【小学校社会】教育出版 平成23年11月
- ・北尾倫彦『平成23年度版観点別学習状況の評価規準と判定基準小学校社会』図書文化 2011.5
- ・田中耕治『パフォーマンス評価 思考力・判断力・表現力を育む授業づくり』ぎょうせい 2011.7